

実践女子大学 生活文化フォーラム

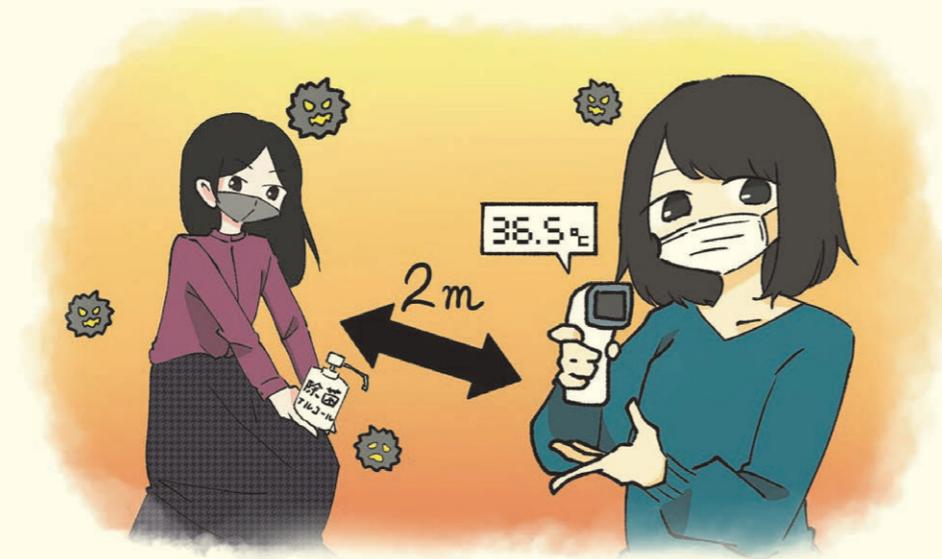
第25号



学びを止めるな！

主任挨拶 学科一丸となりコロナに対応しております

- I 学びを止めないために ～メディア授業における工夫・所感～
①生活心理専攻 ②幼児保育専攻
- II 学生の声を拾う ～学生の様子・学科の取り組み～
- III 現場と学生をつなぐ ～大学から社会へ～
①学生の就活体験記 ②幼児保育専攻幼小コース 小学校教員採用試験奮闘記 ③OG座談会
- IV 学生の学び ～卒業論文(4年)題目一覧～



第25号

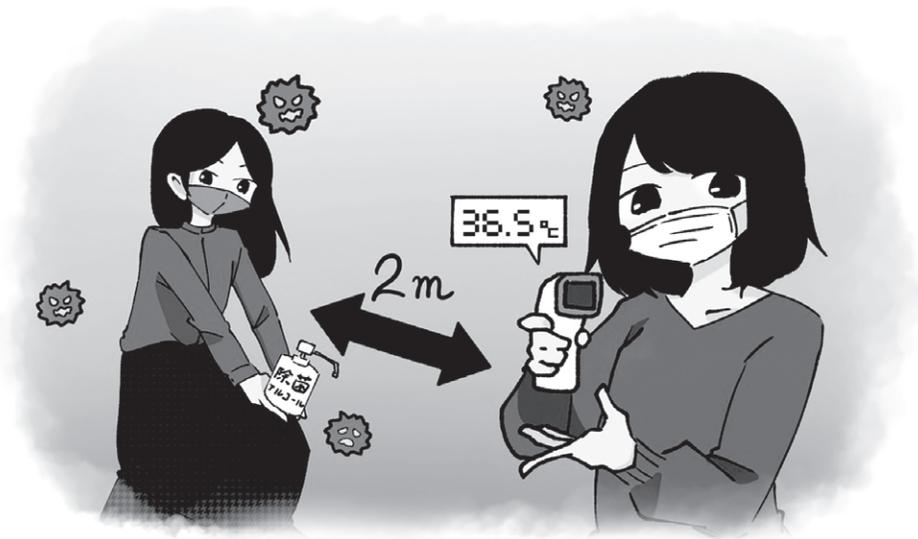
実践女子大学

生活文化フォーラム

学びを止めるな！

主任挨拶 学科一丸となりコロナに対応しております

- I 学びを止めないために ～メディア授業における工夫・所感～
①生活心理専攻 ②幼児保育専攻
- II 学生の声を拾う ～学生の様子・学科の取り組み～
- III 現場と学生をつなぐ ～大学から社会へ～
①学生の就活体験記 ②幼児保育専攻幼小コース 小学校教員採用試験奮闘記 ③OG座談会
- IV 学生の学び ～卒業論文(4年)題目一覧～



学科一丸となり 「コロナに対応」しております



本学生活文化学科 教授 高橋 桂子

新型コロナウイルスの蔓延と共に開始した今年度は、例年になく、慌ただしい開始となりました。何といたっても我々を悩ませたのは「メディア授業」への対応です。メディア授業に不慣れなのは学生たちばかりでなく教員も同じです。本学科では、水野いずみ先生がいち早く知らせて下さった「Zoom」とやらの操作を、島崎あかね先生と私で何度かハーサルを行い、パソコン版簡易マニュアルを作成して教員の皆様に配布しました。学生はパソコンではなく携帯から参加するのではないかと、という指摘が届くと、携帯用マニュアルも必要ね、ということでもゼミ生たちと予行演習を重ねて携帯用マニュアルを作成しました。不慣れなソフトを授業でトラブルなく用いることが出来るよう何度も動かし、その都度、出てくる課題に論理的に考え、知恵を出し合い、それでもわからなければネットの動画などを使って解決してまいりました。

Zoomの操作が一段落したら、次は配信する講義資料の作成・対応です。パワーポイントをmanabaに添付するだけで、内容や重要箇所を適切に理解してくれるだろうか、はたと不安になりました。そのため、大学という組織・集団と貴方はこの状態でも常に繋がっていますよ、我々は貴方たちの就職活動や学び、意欲を常にサポート・応援しています、こういった準備は早めに行いましょう、といった内容からなる「主任便り」も不定期ながらmanabaで発信しております。既読割合も高く、私が伝えたいメッセージが学生たちの心にまで届いている、それをきちんと受け止めてくれているようで、主任として安堵しながらも気を引き締めている毎日でございます。

在学生たちも新一年生や下級生の役に立てないかと、積極的に立ち上がってくれました。新しい事態への対処は若者ほど早いのは常ですが、本学科の学生たちは、それをいかに楽しいものにするのかにも、心を向けることができます。三年生による「新一年生向けZoomランチ会」も、七月以降、三回、開催されました。大変好評で、毎回、数十人の新入生が参加してくれました。一年生全体で百名ですから、いかに参加率が高いか、おわかり頂けるかと思えます。三年生たちは「ブレイクアウトセッションを活用することで、一年生同士の仲間づくりや学科への居場所感が出るように心がけている。顔出しで対応してくれている方も多かったですよ」と話してくれました。また、このような中、恒例の四年生による「内定者トーク」も開催しております。今年は、Zoomの司会進行に三年生が立候補してくれました。生活文化学科という同じ集団に所属する上級生から知識を伝授してもらう。これが一番です。自分たちが取り組まなくてはならない就職活動ということに対して、学科内から

ります。私の担当授業は生活経済学。数学や計算が大嫌いな学生が多い中、対面で何とか学生たちの学ぶ意欲を引き出しながらやっているのに、これがメディア授業で大丈夫だろうか。配信しても未読のままに終わらないだろうか、資料はクリックしてもわからない、ということでも課題が出ないのではないだろうか。考え出すと何一つ、ポジティブな結論は出てきません。そういう時は迷いすぎないことです。語りかけるつもりでパワーポイントを作成しました。さらに、担当教員の音声や短い動画を加えました。ネットにアップ出来る容量制限があります。大教センター長・横濱先生がmanabaに開設下さった「教職員のひらば」のやりとりを参考に逐一、なるほど、なるほどと、ひとつひとつ対処していきました。こうして七ヶ月前を振り返ってみますと、我々教員も「新しい学びの様式」に対応すべく、走り続けた数ヶ月間ございました。

大学という教育機関は、学生たちを「教育から社会へ」いかにソフトランディングさせるかという使命を併せ持っております。対面で学生たちと話すことが出来る機会が少ない現在だからこそ、オーダーメイド型のきめ細かな指導が求められます。二年生は三年生からのゼミ配属に向けて学びを深める、三年生はインターンシップ参加に向けてポイントを押さえた準備をする、そして四年生は就職活動に全力を投球し、後期は卒業論文に取り組む。どんなことでも、新しいことに対しては、そう簡単に上手くいくものではありません。悩むでしょうし、どうしたものかと、誰にどう相談しようと、大いに混乱することもあるでしょう。

いち早く情報を得るために動く。Zoomというソフトを用いることで、これまで見られなかった「新たなリーダーシップ」が着実に発揮されつつあるようです。

私も、ゼミ生たちの日常的な連絡にはスラックを、ゼミでの資料共有はクラスルームを使うといった「新しいゼミ様式」となりました。何と便利なこと！ 多忙ゆえ見えていなかった、周囲に存在する便利グッズ・ハイテク機器にも関心を寄せることが出来た貴重な機会となりました。

生活文化学科では「学びを止めない！」を合い言葉に、十五名の教員と四名の助手が一丸となって学生の履修を全力でサポートしております。縁がありコロナ禍を一緒に過ごすことになった集団です。この集団に所属する一人一人が、少しでも楽しく、少しでも自分が成長できたと思える瞬間をより多く持つよう、主任として、そして少しでも先に生まれた人間として、学生や構成員の皆様と接する所存です。

これから先のページでは、本学科所属の先生方が、それぞれの授業でどのような工夫をされたのか、対面授業とメディア授業の善し悪しなど、思いの丈を語って下さっています。緊急事態宣言解除後、本学科ではいくつかの科目で対面授業を導入いたしました。実習関係では、予定していたいくつかの実習先が変更となりました。ひとつひとつ、丁寧に対応していることがおわかり頂けるかと存じます。引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学びを止めないために ～メディア授業における工夫・所感～

①生活心理専攻

- Zoom・オンライン授業悲喜こもごも 6
塩川 宏郷 本学生活文化学科 教授
- 学びと研究を止めるな！：
授業と臨床でのZoomの効用と限界 8
長崎 勤 本学生活文化学科 教授
- 「生活心理フィールドワーク2」
オンライン授業実施報告 10
水野 いずみ 本学生活文化学科 准教授
- メディア授業を成功させる要因とは？
「基礎演習2」での調査より 18
作田 由衣子 本学生活文化学科 准教授

②幼児保育専攻

- メディア授業が気づかせてくれたこと 22
田中 正浩 本学生活文化学科 教授
- 保育実習の補講演習 24
大澤 朋子 本学生活文化学科 専任講師
- コロナ禍での実技授業の取り組み
～「体育」において大切にしていること～ 26
島崎 あかね 本学生活文化学科 教授
- 幼児保育専攻一年生初の対面授業
「保育活動の実際a」 28
越山 沙千子 本学生活文化学科 助教

■ Zoom・オンライン授業悲劇の中心

本学生生活文化学科 生活心理専攻長 教授 塩川 宏郷

「先生、今年の卒業生追コンZoomだから来てくださいね」前任校の学生から二月ごろにこのようなメールが届きました。クラス担任をしていたのですが、卒業する前に本学に異動したために、彼らの卒業に同席できなかったことを少々後ろめたさを感じていた時でした。

実は、「え？何Zoomって」というつぶやきから始まった二〇二〇年でありました。ネットやITに疎いおっさんと思われるのが嫌で、けっこう背伸びをして「WitterもインスタグラムもLINEにも手をだしてりましたが、ロゴを初めて見た時は「え？何Zoomって」というレベルでした。

あれよあれよと言う間にキャンパスが閉鎖され在宅で授業をすることにになり、おっかなびっくりZoomで「双方向型授業」というのをスタートしたのですが、これがまた操作になかなか習熟できず、たくさんのミスで複数のミーティングを立ち上げてしまつて誰も入れなくなつたり、ミーティングが何十年も先まで終日続く設定になっていたりという、艱難辛苦・阿鼻叫喚の連続で二〇二〇年が終わつてしまつたという、お恥ずかしい限りです。

これまで使つたことのない器具を使つてやつたことのない手術に向かう、大げさな言い方かもしれませんが、それに近い心理状態だったと思います。そのような中でデメリットはさておき、

となり、折しもオンライン診療ということが巷でも推進されているという報道に触れたこともあり、体で訪問できないならネットで訪問してしまおうと考えました。こちらもZoomを使つて訪問先のスタッフにミーティングに入つてもらい、施設の紹介や質疑応答をしてもらうという形式を試してみました。先方のスタッフも「そいつはおもしろい」と乗り気だったことにも助けられました。事前にインタビュー項目を決めて先方に知らせ、質疑をスムーズにすすめることもできましたし、訪問したら聞けないような踏み込んだことに迫ることもできました。

感染症の影響下に「新しい生活様式」の実践が求められています。私たちも「新しい教育・学習様式」が求められているのだと思います。オンラインという方法論を手に入れ、教育の仕方・学習の仕方がまさに新しい方向に一步踏み出しているのです。「通信制教育じゃないのだから、オンライン授業なんて！」と思つたこともあります。これはこれで「あり」だなど今は考えています。もとに戻ることを目指すのではなく、もとに戻ろうとしたら新しいところにとどり着いたといった感慨をいだきました。

「新しい普通の学び」、これが今、私たちが目指す方向なのだと思います。

メリットと感じたことをいくつか述べたいと思います。

いわゆる「知識伝授型」の授業は、Zoomで双方向とすることで却つて学生に問いかけやすかつたり、学生も言いたいことを言うたりできるのだなどという発見がありました。せいぜい三十人くらいのクラスでも、教室で「質問はありませんか」と尋ねても質問しようとする学生はほとんどいません。けれどZoomの場合はチャットを使つてタメ口で質問ができますし、匿名で質問されたように装つて全員に向けて質問への回答・解説を口頭ですることでもでき、物理的な距離があつてもネット的には近い距離で授業ができたという印象があります。

また、集団を前にしての発表は苦手、という学生もPCやスマホに向かってなら、かつ顔出ししなくてもよいとなると、「え、あの学生が」と思うような意外な一面を目の当たりにするということになりました。これらはネットの「匿名性」によるメリットなのだと思います。これはネットのはけこつ個人をエンパワーするものなのだと感じました。と同時に、ネット上での自我が肥大しすぎてしまうと行き着くところはネットいじめやSNS暴力なのだと感じ、誰でもそのような状況に至る可能性もあると、あらためてオンラインの危うさも感じました。

苦慮したのは、フィールドワークのような「実際に現場を見て体験して考える」というタイプの授業です。この感染症騒ぎで、例年学生の見学をお願いしていた施設からは軒並みお断りのお返事をいただいて、どうしたものかと思ひ悩みました。せっかくなので、このような時にしかできないことをやろうというこ



■ 学びと研究を止めるな！ 授業と臨床でのZoomの効用と限界

本学生活文化学科 教授 長崎 勤

二〇二〇年二月までZoomの「ず」の字も知りませんでした。四月から、前期の授業の八割方をZoomでの双方型授業によって行いました。またゼミでは自閉症スペクトラム障害児へのZoomを利用した家庭支援も試みました。そのあれこれを紹介したいと思います。

1. 書齋が研究室・講義室化に、その心理的圧迫

Zoom授業が決まってから、まずTEPPAを購入しました。教材をPDF化して、manabaで配信するための資料をファイルするためです。大学の研究室には一台ありましたが、大学には入れませんでした。書齋には、授業用資料、Zoom用の機材などが並び、研究室化し、自宅書齋との物理的・心理的境界線が崩れ、今振り返ってみると独特な心理的圧迫感がありました。それに講義時には五十名の学生を自宅に招いているような奇妙な緊張感もありました。そのため二時間のZoomでの授業が続くなどすると、今までに経験したことのない疲労感が残りました。

2. Zoomで情報伝達ができるが、共同注意が困難

例えば、通常の授業では、教員と学生Aが、講義内容につ

いて会話します。その二人の様子や表情を学生Bが観察します。

同じように学生Cが観察します。このようにして、学生B、学生Cは【教員と学生Aのやりとりについて】の「共同注意 (joint attention)」を行い、意味や価値観を共有します。Zoomではこのような共同注意が困難です。Zoomのブレイクアウトセッションによって、小グループに分けることもできますが、このような共同注意はやはり困難です。

つまり、Zoomで情報伝達は可能ですが、アクティブな学びは、メカニズム的に、また構造的に困難なのです。

このような限界を踏まえつつ、災害時などにやむを得ず行うものでしょう。スタンダードになつてはならないと思います。

3. Zoomを利用した自閉症スペクトラム障害児への

家庭支援と臨床実習

三月末からの入校禁止により、二〇二〇年二月から支援を開始していた五歳の自閉症スペクトラム障害児 (ASD) のT児への発達支援プログラムを中断せざるを得なくなりました。そこで、五月末から六月末の対面臨床が始まるまでの間、Zoomを利用して、家庭と学生・教員をつなぎ、三回の家庭支援を試みました。音楽遊び、家庭のリビングでお母さん、お父さんと一緒に椅子取りゲーム、人形を使ったごっこ遊びなどでした。学生は、Zoomでお互いの指導案を検討し、リハールも行いました。また、ある活動を行っているときは、担当以外の学生はブレイクアウトセッションを用いて観察し、記録を行いました。

(1) ASDの特性と支援方法の把握

このZoom臨床を通して、前述した共同注意の困難性という制約がありながらも、T児の視覚的・聴覚的注意や相互性、間主観性の制約・特性が明確になり、その後の支援に貢献しました。また、今後のZoom臨床への示唆として、母親・父親に援助のポイントを示す、発話者の存在を示すために手を上げるなど視覚的に示す、発話、動作、表情を明確に、言語の指示は、短く、明確に行う、Zoom画面の登場人物は少なく、自宅ならではの課題の設定 (好きなおもちゃを見せる、指導者と同じ形のものを持つてくるなど) 等の示唆が得られました。



(2) ASDの支援におけるZoomのメリット

さらに、ディスプレイが好きな傾向のあるASDにとっては、「切り取られた世界」でのコミュニケーションは、対象者や対象物が限定されて明確になり、かえってコミュニケーションが容易となるとZoomによる支援のポジティブな側面も考えられました。ASDはZoomの世界を生きているのかもしれない

ん (長崎・杉山・伊藤・板倉・吉井, 2020a, b)。

(3) Zoom臨床実習の可能性

その間の学生との対面は〇回でしたが、一定の実習経験が得られました。普段のスタッフ間のコミュニケーション、計画の指導の準備が重要といえます。

(4) 対面臨床の再開

大学の入校解禁に伴い、六月末より対面臨床を再開しました (月二回、一回二時間)。感染症対策マニュアル・消毒作業手順の作成、マスク・フェイスシールドの着用、指導前後の消毒作業など感染症対策を徹底して行いました。Zoom臨床によるつなぎで、比較的スムーズに再開ができました。

対面臨床では、補助指導者 (ST) をつけて、身体援助、モデル提示ができる、広い空間での移動など、対面の意義も再認識することができました。

今まで誰も経験したことのない事態でしたが、学生、保護者と協力しながらの実践は、私たちに多くの気づきと学びをもたらしたといえます。

【文献】

●長崎勤・杉山志津枝・伊藤和佳・板倉達哉・吉井勤人 (2020a, b) 双方型メディア (Zoom) を用いた発達支援・実習の試み (速報) (1) (2) 1-5歳・発達障害児へのICT遠隔支援の問題・目的・方法 / 音楽模倣遊びの分析による障害特性の理解と遠隔支援・実習の可能性の検討 / 日本特殊教育学会第58回大会 (リモート開催) (ポスター発表)





実際に報道されたコロナウイルスに関する記事

① コロナウイルスの治療薬について

コロナウイルスの治療薬候補として、新型インフルエンザの「アビガン」や肺炎の「フサン」など、別の病気に対する既存薬が期待されている。既存薬の効果が期待されているのは、ウイルスの活動が似ているためである。現在治験などで効果がみられた既存薬もあるが、明確な治療効果のある既存薬は未だ発表されていない。

② 「コロナ治療に既存薬？他ウイルスと「一生」類似ノリウマチ薬にも期待」 朝日新聞

https://www.asahi.com/articles/DA3S14529485.html?iref=pc_ss_date

③ 記事の感想

コロナの特効薬については日本で流行の兆しが見えた時期から話題が上がっていた。しだいにコロナの特効薬から、すぐに投与できる既存薬の有効性について関心が集まり、様々な種類の既存薬がコロナに効果的だといった噂が流れていた。しかしこの記事を見る限り、現在コロナウイルスに確実に効く既存薬はなく、どの噂も確かな根拠のないままメリットの情報が広く拡散したと考えられる。興味を持った理由は、この記事内でさえも既存薬が効果的なのか効果的ではないのか曖昧であり、既存薬について不確かな情報が広まったのは仕方なかったのではないかと思ったからである。

生活心理フィールドワーク2 前期水野チーム

**新型コロナウイルス関連の噂についてのインタビュー調査
および噂の時期による傾向の分析**

生活文化学科 2年 生活心理専攻
上阪水裕

背景・目的

〈背景〉 災害や感染症流行など、根拠のない噂が流れることがあるテレビ番組や新聞・雑誌記事などのメディアでも、根拠がはっきりしないまま治療法や感染状況について報道していることがある

〈目的〉 今回のコロナウイルス流行ではどんな噂がいつ・どのように流れたのか調査する

〈噂に関する先行研究〉

- ◆竹中（2008）
 - ・噂の拡散に影響する個人要因：あいまいさ・重要性・不安・信用度、面白さ、個人特性
 - ・噂の拡散に影響する状況要因：情報機能、娯楽機能
 - ・不安に感じていると噂の伝達するのが早い
- ◆竹中（2013）
 - ・うわさを「日常型・非日常不安型・非日常娯楽型」の3類型に分類
 - ・非日常不安型で高い要因は「不安喚起・確実性・重要性・もっともらしさ・情報提供機能」である
 - ・非日常不安型では「伝達意図と会話機能・情報提供機能」と「確認意図と会話機能・情報収集機能」が関連
 - ・非日常不安型では、「相手と一緒に盛り上げられるような内容」「相手に有益な情報が伝えられるような内容」の場合に誰かに伝えようと思われやすく、一方で「相手に一緒に盛り上げられないような深刻な内容」や「相手から有益な情報が得られるような内容」の場合に真偽や詳細を確かめようと思われやすい

本研究の構成

- ◆コロナウイルスに関する実在する記事
- ◆本調査の背景・目的
- ◆本調査の方法
 - データ収集
 - 分析
 - 結果のまとめ方
- ◆本調査の結果
 - 自分の調査・分析に関するコメント
 - カテゴリー・ラベルのまとめ
 - 分析結果
- ◆本調査の考察
 - 考えられること
 - その理由
 - 自分の考察に関するコメント

「生活心理フィールドワーク2」
オンライン授業実施報告
本学生活文化学科 准教授 水野 いずみ

二〇二〇年度前期「生活心理フィールドワーク2」（生活心理専攻二年次必修授業）では、オンラインで授業を実施した。この授業は、例年、様々なフィールドに足を運ぶことを軸としながら、事前事後指導を十分に行い、各学期の最後にはフィールド訪問をふまえた報告を行う形態をとっている。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年とは異なる授業形態をとる必要があった。

筆者が担当したクラスでは、本学でかねてより導入されていたオンライン学習システムCanvasを活用し、(1)各回スモールステップによって作業（身近な人に、心理学的な手法の一つであるインタビューを行い、結果をまとめ、報告するという一連の流れから構成されている）を積み重ねることや、(2)ファイルの相互閲覧やプロジェクト掲示板への書き込みの相互参照を行うことによって、各自が最終的に報告用のプレゼンテーションを作成できるようにした。図は、今年度前期に実施した「生活心理フィールドワーク2」オンライン授業において履修者が各自作成した報告の一つである。

また、以下は、前期授業終了時の履修者の所感である。主な所感として、①「授業内での取り組みをふまえた学び」・②「学習内容共有の効果」・③「学習内容と生活の関連」の三種類がみられた。これらの所感から、学んだことや他者とのやりとりを

②【学習内容共有の効果】

- ・すごく大変だったが、ほかの人のものをよく見る機会になった
- ・周りの人のパワーポイントなどを見て学ぶことも多かった
- ・他の人からのコメントをみて参考にすることができたり、自分のやる気に繋がったりできたので良かった。この授業を通して、データをまとめたりカテゴリ分けして他人に上手く伝える方法を身につけることができたのではと思う
- ・他の人のパワーポイントのまとめかたなどを見ると、自分とは全く違うまとめ方をして学べる部分がとてもあるので、そういう参考にできるべき部分は参考にしていきたいと思う
- ・情報のラベリングが上手くできず、初めの方は手間取ることが多かった。そんな中でも他の学生との比較が頻繁にでき、顔は一切見えないものの、なんとなく一体感のようなものを感じられた

③【学習内容と生活の関連】

- ・今の世の中での状況を生かした授業だったので、身近に感じられ、ある意味危機感を持って授業に取り組むことが出来た
- ・色々な情報が混在している中で、客観的に整理すると見えてくるものがあると感じた。新型コロナウイルスに関することだけではなく、情報を整理することは他の事柄にも生かせると考えた

①【授業内での取り組みをふまえた学び】

- ・今学期の授業を振り返ってみると、初めて行ってみたいということが多かったなと感じた。インタビュー結果をラベル分けしたり、カテゴリー化したりと分からないことだらけで合っているか不安だなと思うときもあった。また、データ分析というのがかなり難しい作業だということが分かり、データ分析後に自分の言葉で自分なりにパワポでまとめる工程は大変だった。今後、心理の研究をしていくにあたって、こういったデータ分析の作業というのは多いと思うが、慣れるためにも今回やって良かったと思う
- ・まとめ作業の序盤で間違えてしまうと、後の作業にかなり響いてくるので、もっと早く気付くべきだったと反省した。今後は、今行っているまとめ方の方向性であっているのかを随時確認しながら作業を進めるようにしようと思った
- ・調査は実際に結果に直結することなのでもちろん重要だが、その結果をまとめるということは、初めて調査を見る人にも理解してもらえるようにする必要があるので、さらに重要だと感じた。また分類ごとにカテゴリーで分けることで、結果がより分かりやすくなるので、分けるカテゴリーを考えるのは少し苦労するが必要な作業だなと思った
- ・今後インタビューを行う際には、入念に質問項目を考えておくべきだと感じた

通じて、生活心理専攻の学習内容を生活に関連付けて考えていくという経験を得ることができたと思われる。



インタビュー結果の内容・まとめ方：良い点

- ・(1)これだけたくさん噂を聞き出せていてすごい
- ・重要そうなところにマーカーで印をつけているところが良かった。
- ・シンプルで見やすい点
- ・(4)~(8)大事などころに色がついていて見やすいと思った
- ・かなり自分で質問内容を考えたのではないかなと思えるくらい回答がたくさんあって見習いたいと思った
- ・分量が多いのによくまとめられていて読みやすかった
- ・噂を多く聞き出せているだけでなくどれも興味深い内容で、すごいと思った。
- ・あとは、なんか芸能人がテレビでニュースについて意見を言い合うみたいな番組が最近多いと思う。ニュースよりは堅くないっていうのかな、有名な人が話すとか本当のことっぽいし内容も広まりやすいんじゃないかな
- ・(3)：噂を知った時期がかなり具体的に示されている点
- ・内容がたくさんあったが、それを番号に振り分けたり、段落ごとに分けていたのでも読みやすかった。
- ・噂のところが細かく書いてまとめている点
- ・調査対象に医学生を選出できていてすごいなと思いました。
- ・話したまま書いているから状況が伝わってきた
- ・とても詳しく書かれていてわかりやすかった

インタビュー調査の回答：追加項目で興味深い点

- ・(8)感染症の種類に対する変化の質問は、新しい観点でいいと思った
- ・今回の感染症についてだけでなく、ほかの感染症と比較することでより今回の感染症の特徴がはっきりしていいと思った。
- ・いわゆるアンチ?のような意見を見てどう思ったかという質問
- ・(8)インタビュー調査の主となっている題材を、他の感染症と比較することで更に明確にしようとする発想が良いと思った
- ・(7)噂を誰かに話したかという質問はその噂がどのように広がっていくのか気になったからかはわからないが、あまりほかの人が質問しなそうなことだったから
- ・(7)例年流行している感染症と比較することで今回の感染症の怖さが引き立つ
- ・8.今回のものと従来のものとを比較していて観点が鋭いと思った。
- ・ニュースの報道方法が通常の感染症とは明らかに異なることがわかった
- ・コロナウイルスとそれ以外の感染症を比較した質問をしている点
- ・コロナウイルスと他の感染症を比べることで、今回の感染症がより世界中に影響を及ぼしていることをはっきりさせた感じがした。
- ・今回の感染症と毎年流行する感染症の噂の違いに着目している点
- ・(7)噂を見聞きして、その後誰かに話しましたか。→噂のその後について追及するのは良いことだと思った。
- ・コロナについてより考えられる質問でよかった
- ・(8)コロナがどれだけ大きなことなのかわかった

〈分析〉

- ・インタビュー調査の記録をもとに逐語録を作成
- ・データにラベル付けを行う
- ・大カテゴリ作成
- ・文献を参考にし、分析を行う
(参考文献：心理学マニュアル 面接法 第10章 p119~120)

〈結果のまとめ〉

- ・自分の調査・分析に対するコメントをパワーポイントに記入
- ・コロナウイルスに関する記事についての情報を記入
- ・大カテゴリ・ラベルを整理
- ・分析結果をパワーポイントに記入
- ・構成・目的・方法を記入+タイトルの変更⇒報告会のプレゼン形式に内容を変更

方法

〈データ収集〉

テーマ : 今回のコロナウイルス流行に関する噂について

調査対象者 : 家族、または友人

日程 : 6/9~6/22

方法 : インタビュー調査
半構造化面接法を使用
対面・電話・映像付き通話を選択

質問項目 : (1)今回流行している感染症について、聞いたことのある噂をいくつか教えてください。
(2)どこで知りましたか。
(3)いつ知りましたか。
(4)噂を見聞きしてどう感じましたか。
(5)その噂は本当だと思いますか。その理由も教えてください。
(6)なぜその噂が発生したと思いますか。
(7)自由に追加。

大カテゴリに対するコメント

参考にした大カテゴリ	理由
外国	外国に分けることの出来る話が結構多くあったからあとと便利
被害	被害情報を如実に示していて自分たちの生活に最も関連する情報だから
外国	世界の状況についてわかりやすくまとめられていたから
個人的な考え	個々の考えだというのがわかりやすいから
被害	私は「生活」でまとめてしまっていたが、「被害」でまとめたほうが生活に影響した噂とそうでなかったものに分けられて良いかなと思った。
個人的な原因	社会的な原因と個人的な原因とで分けることで原因が突き止めやすい。
社会的な原因	個人の意見ですべてまとめるのではなく、個人とは別のカテゴリだとよりわかりやすいから。
現在の人々の感情について	噂と感情の関係性をはっきりできるから。
感情	噂に対しての感情をまとめることで、噂に対してどのような反応をする人が多いかまとめることができるから。
被害	コロナウイルスが原因で実際に起こってしまったことを知り、他の噂などと関連づけて考えることができると思うから。
個人的な考え	本音が聞ける
コロナ	一目見て分かるから

大カテゴリのまとめ

今回の調査データをまとめた結果、まず大カテゴリを以下の内容に分類することができる

- ・時期に関する内容：「時期」
- ・方法に関する内容：「方法」
- ・噂の種類に関する内容：「コロナ」「社会」「被害」「外国」「対策」
- ・噂に対する感情に関する内容：「感情」
- ・噂の真偽判断に関する内容：「本当」「嘘」「半信半疑」
- ・噂が広まった原因に関する内容：「社会的な原因」「個人的な原因」
- ・噂に対する考えに関する内容：「個人的な考え」

インタビュー調査の回答：さらに知りたい点

- ・(1)コロナで若者は死なない
- ・その医学部の教授は感染症を専門としているのか。
- ・その質問に対する意見が賛成意見ばかりだとしたらどう思っていたか
- ・(1)各国の対応が分かっている。スウェーデンとかブラジルはコロナに対して特別な対応はしてないらしい。国によって(コロナウイルスの)捉え方が違うよねって
- ・(5)友達のお父さんとかが体験したことがどのようなことなのか気になった
- ・(1)若者で死者は出ない
- ・9.最初はPCR検査の数が少なかった
- ・東京の病院で扱いきれなくなった患者を県外に出している
- ・再陽性が出るって話もよく聞く。インフルエンザとかは同じ年にA型2回かかったって話は聞かないけど、コロナは再陽性が起こるんだって所までは知っている
- ・(1)：⑩ PCR検査をしてもえなかったことについて
- ・(2)の⑩ 教授から聞いたとあるが、その教授の専門分野は何か。
- ・(1)人と会う人数を8割削減すれば感染を抑えられることについて
- ・(2)① コロナウイルスでは若者は死なないらしいよ。でもそうやって報道すると若者が外出自粛しないから言わないんだって。
- ・(2)TVやSNSの情報はどれくらいの頻度で入ってきたか

結果

インタビュー調査の回答：興味深い点

- ・日本も罰則ありで、外出制限ができるかも
- ・知人がPCR検査をしてもらえなかったこと。
- ・②：20代はかかっても重症化しないという噂
- ・最近抗体検査も始まっているらしい
- ・⑦：熱ある患者にゴミ袋を被って対応していること
- ・抗体検査が始まっている
- ・⑩：再陽性がよく出るという話
- ・知らなかった噂がたくさんあった
- ・⑤：噂を実際の数字を見るまで信じないことについて
- ・熱がある患者さんに対しては、まじでゴミ袋被っているっていう話も聞いた。防護服は高いし、足りないから、手に入りやすいもので代用しているらしい
- ・⑩：私の友人と同じ内容の噂だったが捉え方が少し違う気がしたので、面白いなと思った。
- ・①：コロナウイルスでは若者は死なないらしいよ。でもそうやって報道すると若者が外出自粛しないから言わないんだって。
- ・PCR検査してもらえず家に帰されたこと
- ・抗体検査が始まっていること

パターン①： [時期] 流行前(2~3月)の噂 × [真偽判断] 本当

噂の種類	噂の取得方法	感情	真偽判断の方法
外国(中国)	5 テレビ	7 不安	7 主観的根拠
コロナ	3 SNS	3 注意	2 実体験の信頼
社会	2 インターネット	2 納得	1 無条件
対策	2 知人	2	テレビ信用
被害	2		
外国(世界)	1		

パターン②： [時期] 流行前(2~3月)の噂 × [真偽判断] 嘘

噂の種類	噂の取得方法	感情	真偽判断の方法
コロナ	7 インターネット	5 不安	4 主観的根拠
対策	4 SNS	4 驚き	1 実体験の信頼
外国(中国)	1 テレビ	3 安心	1 客観的根拠
被害	1 専門家	1	テレビ不信
			非現実的
			反論意見
			情報過多

分析：パターン分類

- 噂を聞いた時期と噂に対する真偽判断から、パターンを4つに分類
- それぞれのパターンについて、どのラベルがあったか集計
- 噂を聞いた時期によるラベルの変化を考えていく

〈パターンの種類〉

- パターン①： [時期] 流行前(2~3月)の噂 × [真偽判断] 本当
- パターン②： [時期] 流行前(2~3月)の噂 × [真偽判断] 嘘
- パターン③： [時期] 流行前(4~5月)の噂 × [真偽判断] 本当
- パターン④： [時期] 流行前(4~5月)の噂 × [真偽判断] 嘘

※6~7月のカテゴリーは回答数が少なかったため除外
※半信半疑のカテゴリーは回答数が少なかったため除外

【噂の種類に関するラベル】

大カテゴリー：コロナ

- ウイルスの情報
- 感染力
- 重症化
- 症状
- 今後
- その他の感染症
- コロナの影響

大カテゴリー：被害

- 品不足
- デマ
- 偏見

大カテゴリー：外国

- 中国
- 世界

大カテゴリー：社会

- 社会情勢
- 政府
- 医療関係
- 家庭環境
- 他者への関心

大カテゴリー：対策

- 消毒
- 対策
- 治療薬
- 免疫力
- 実行

【時期に関するラベル】

大カテゴリー：時期

- 〈流行前〉 2月 3月
- 〈流行中〉 4月 5月
- 〈流行後〉 6月 7月
- 〈その他〉 覚えていない

【方法に関するラベル】

大カテゴリー：方法

- 〈人〉 知人 家族 専門家
- 〈SNS〉 SNS SNSではない
- 〈テレビ〉 テレビ テレビニュース 情報番組 ワイドショー
- 〈インターネット〉 ネット ネット記事 ネットニュース ネットニュース専門機関のHP
- 〈その他〉 実体験 広報 ニュース(媒体不明)

結果から言えること

◎パターン①： [時期] 流行前(2~3月)の噂 × [真偽判断] 本当

- 中国関連の噂が多いことから、コロナウイルスの発生源とされている中国に関する関心が高かったと考える

◎パターン②： [時期] 流行前(2~3月)の噂 × [真偽判断] 嘘

- コロナウイルス関連の噂が多いことから、ウイルスに関する知識が個人レベルでも社会レベルでも曖昧だったと考える

◎パターン③： [時期] 流行中(4~5月)の噂 × [真偽判断] 本当

- 噂の種類が主に対策・コロナ・社会に関するものであることから、現状・行動に関する情報に関心が集まっていると考える

◎パターン④： [時期] 流行中(4~5月)の噂 × [真偽判断] 嘘

- 噂の取得方法に実体験があることから、コロナが身近な存在になったと考える
- 噂の種類が主に対策・被害に関するものであることから、コロナについて関心が高まった結果、信憑性の低い対策やデマでも噂になりやすい状況だったと考える

◎全体の流れ

- 流行前は中国やコロナに関する噂が主流だったが、流行中はコロナ・対策・社会に関する噂が主流となっていることから、日本での流行によって知りたい情報が変化したと考える
- 流行前に比べ流行中は噂の数が急激に増えることから、コロナに対する関心が高まっていると考える

パターン③： [時期] 流行中(4~5月)の噂 × [真偽判断] 本当

噂の種類	噂の取得方法	感情	真偽判断の方法
対策	12 テレビ	12 不安	8 主観的根拠
コロナ	11 インターネット	6 注意	3 実体験の信頼
社会	10 SNS	5 驚き	2 テレビの信頼
外国(中国)	5 知人	4 無関心	1 無条件
外国(世界)	3 専門家	1	専門家の信頼
被害	2 家族	1	客観的根拠
			周りの影響
			友達の影響

パターン④： [時期] 流行中(4~5月)の噂 × [真偽判断] 嘘

噂の種類	噂の取得方法	感情	真偽判断の方法
対策	4 テレビ	3 不安	2 主観的根拠
被害	3 実体験	2 呆れ	1 非現実的
コロナ	1 SNS	1 無関心	1 客観的根拠
社会	1	実感	1 実体験の信頼

【噂が広まった原因に関するラベル】

大カテゴリー：社会的な原因

- 関心の集中
- メディアの影響
- 周囲の反応
- 情報の希少性
- 人づての情報

大カテゴリー：個人的な原因

- 情報の吟味
- 知識
- 実行
- 使命感
- 不安感
- 情報の取得
- 調査対象者の情報

【噂に対する考えに関するラベル】

大カテゴリー：個人的な考え

- 意見

【噂に対する感情に関するラベル】

大カテゴリー：感情

- 〈ポジティブ〉 納得 安心
- 〈ネガティブ〉 呆れ 驚き 不安 注意
- 〈その他〉 無関心 実感

【噂の真偽判断に関するラベル】

大カテゴリー：本当

- 客観的根拠
- 主観的根拠
- 実体験の信頼
- 専門家の信頼
- 理由不明
- 無条件
- テレビの信頼
- 周りの影響
- 友達の影響

大カテゴリー：嘘

- 実体験の信頼
- 情報過多
- テレビ不信
- 理由不明
- 疑い
- 疑問
- 客観的根拠
- 主観的根拠
- 理由不明

大カテゴリー：半信半疑

- 客観的根拠
- 主観的根拠
- 非現実的
- 批判的意見
- 反論意見



考察に対するコメント

関心を持った点	その理由
噂の取得方法に異様がある	カテゴリ別で見やすかった
日本での流行と共に知りたいたい情報の内容が変化するため、主な噂の種類も変化したと考える	多くの人が知りたいたい情報と出る場に関係があるということが分かったため
中国関連の噂が多いことから、コロナウイルスの発生源とされている中国に関心が高かったと考える	未知のウイルスに対して、何が、どこが原因で発生してしまったに関心を持つ人が多かったとされることは良いことだと考えたから。
流行前は中国やコロナに関する噂が主流だったが、流行中はコロナ・対策・社会に関する噂が主流となっていることから、日本での流行によって知りたいたい情報が変化したと考える	流行する前後で、知りたいたい情報が変化したのは面白いと思ったから。
コロナへの関心	人間の心理を読み取ることが出来たため
コロナウイルスが未知のウイルスであったこと。	未知のウイルスであった為、専門家でも意見が違ったりしたこと、様々な噂が流れたという考えに共感したから。
流行前は中国やコロナに関する噂が主流だったが、流行中はコロナ・対策・社会に関する噂が主流となっていることから、日本での流行によって知りたいたい情報が変化したと考える	他国の情報と国内での情報が異なるのはおそらくこのことが原因だと考えたから
コロナに対する信憑性が低い噂が流行前に多く存在した	不安から事実がわからないような噂が絶えなかったのだから
信憑性の低い噂でも広まりやすかった	パニック状態で必要以上に情報を集めてしまうのは、自分の周りでも起きていたため納得した
コロナに関して嘘だと感じる噂が多いのは、コロナは未知のウイルスであり、たれも正しいことが分からなかったから。	デマという言葉を聞くと思いを揺るがせ、言われれば信じてその通りですべて事態からもたらされたものではないのかもしれないと気付けたから。
当初はコロナに関する情報への関心が全体的に低かったが、日本で流行するようになりコロナへの関心が急激に高まり、様々な噂が流れるようになった	4~6月ごろに情報を得た人が多いことはまとめていて気付いたが、そこにコロナへの関心の変化が関わっていると思っていなかったのではなほどと思った。
当初は専門家でも意見が割れていた	専門家の意見が割れている状況は人々により不安感を考えたと感じた

22

なぜそのように言えるかと考えるのか

- ・当初は日本での流行の可能性は低いと考えられていたため、コロナに関する情報への関心は全体的に低かった。しかしその後日本で大流行したため、コロナへの関心が急激に高まり、様々な噂が流れるようになったと考えるため
- ・コロナウイルスは新しく発生した未知のウイルスだったこともあり、当初は専門家でも意見がウイルスに対し割れていた。そのためコロナに関する信憑性の低い噂が流行前には多く存在し、結果として嘘だと思ふ噂が増えたと考えるため
- ・日本で流行し始めると、コロナについての正しい情報・正しい対策が必要となる。そのため信憑性の高い噂が流行中は多く存在し、結果として本当だと思ふ噂が増えたと考えるため
- ・その一方で流行中は一種のパニック状態であり、必要以上に情報を集める傾向があったと考えられることから、信憑性の低い噂に関しても広まりやすい状況だったと考えるため
- ・実際にコロナの危機に脅かされている状況下では、コロナの情報や対策、社会の情報が必要であり、日本での流行と共に知りたいたい情報の内容が変化したため、主な噂の種類も変化したと考えるため

21

今後の課題

- ・本研究では、時期や収集方法、内容、真偽判断のほかに「噂が広まった原因」についてもインタビュー調査を行い分析をしていた。しかしパターンを分類した際に、「噂が広まった原因」に関するラベルは全てのパターンについてはほぼ同じ割合だったため、どの時期に関しても噂が広まった原因は同じであるという結果となり、資料や考察からは除外した。
- ・このような結果となった原因は「噂が広まった原因」に関するデータを大きく2種類に分けたことであり、カテゴリやラベルの付け方が大雑把すぎたことであると考えられる。
- ・今後はデータのカテゴリ・ラベルをさらに細かく分類し、時期と「噂が広まった原因」との関係性や変化が考察できるような分析を行いたい。

参考文献

- ・竹中一平,(2008),対人心理学研究の最前線(第5回)人から人へ伝わる情報:一うわさの対人心理学一, 綴織製品消費科学,49(7), 467-476
- ・竹中一平,(2013),類型別にみたうわさの伝達に関連する要因:内容属性と機能の評価からのアプローチ, 武庫川女子大学紀要,61, 43-52
- ・保坂亨・中澤潤・大野木裕明,(2000),心理学マニュアル 面接法, 北大路書房

24

考察

- ・コロナウイルスの噂を聞いた時期を軸にパターンを分類し、時期による噂の変化について考えた。
- ・その結果、流行前・流行中・流行後の噂について、その内容や量に変化があったと考えられる。
- ・流行前の「日本での感染流行の可能性が低い」「コロナウイルスに関する情報が少ない」という状況から、流行中は「コロナが身近になった」「不安を感じる」「コロナについてもっと知りたい」という状況へと変化したことによって、コロナウイルスに対する関心が高くなり、結果として噂の量の増加が起きたと考えられる。
- ・先行研究において噂と感情の関係性が研究されているが、本調査でも「不安」「パニック」などの感情が噂を伝達する要因となりやすい可能性が判明した。
- ・特に不安感情が最も高いであろう流行中の時期では、本当・嘘だと考えられる噂の両方も量が増えたことから、噂の真偽よりも多くの情報を得ることが優先されていたと考えられる。
- ・個人的・社会的な状況の変化によって、噂の内容や量が変化することが判明した。

23



■メディア授業を成功させる要因とは？ 「基礎演習2」の調査より

本学生活文化学科 准教授 作田 由衣子

「基礎演習2」の授業では、毎年、学生がグループごとにそれぞれ興味のあるテーマについてアンケートを作成し、データを収集してその結果を報告するということを行っています。今年度は全グループ統一テーマとして「メディア授業を成功させる要因とは？」について調べました。基本的な前期はメディア授業で、この科目もオンデマンド形式(+Zoom)での実施となりましたので、ここで少し客観的に、メディア授業を構成する様々な要因が学習効果にどのように関連するかについて考えてもらう機会になればと思います。

①調査方法

まずはインターネットを介した授業について文献研究を行い、これまでの先行研究からメディア授業が上手く行くのに必要と思われる要因をピックアップしてもらいました。学生たちから挙げられた内容をまとめて、教員の指導方法（授業終了後に小テストを行うなど）、双方向のコミュニケーション（学生同士の話し合い・教え合いがあるなど）、学生の受講態度（自宅都合のよい時間帯に自分のペースで視聴できるなど）、環境・生活習慣（同じ時間に起床しているなど）の四種類の要因に注目することにしました。また、「メディア授業の成功」をどのよう

学生の実感としては、双方向性はそれほど効果があったとは感じられなかったようです。

二つ目に、モチベーションと理解度についての回答内訳を見てみました。対面授業に比べて授業内容がよく理解できているかどうかは、ほぼ正規分布しており、「どちらともいえない」という人が過半数で一番多いという結果でした。対面授業に比べて質問しやすいかどうかについては、「非常によく当てはまる」と「当てはまる」を合わせて約五十二％と、過半数の人がむしろ対面授業より質問しやすいと感じていたという意外な結果となりました。教室では周りの学生を気にして質問しづらい人も多いようですが、manabaやメールを使えば周りを気にせず比較的気軽に質問ができるのかもしれない。

三つ目に、各項目の回答の平均値を計算し、相関係数を求めました。その結果、課題の提出や授業内容の理解の両者と相関が見られたのはオンデマンドの解説付き動画（教員の指導方法）と自宅で都合のよい時間帯に自分のペースで視聴できること（学生の受講態度）でした。「オンデマンドの動画を自分のペースで視聴することで学習効果があったと実感している人ほど、モチベーションや理解度も高い」ということになると考えられます。

③調査を終えて

最後に、グループごとに結果を集計してもらい、調査目的から結果と考察まで、調査報告を想定したパワーポイントにまとめてもらいました。この一連の作業はほぼ完全に遠隔でのやり

に測定するかも考えなければなりません。こちらでも先行研究を参照し、モチベーション（集中力が持続する、課題を提出できているなど）と理解度（対面授業に比べて授業内容がよく理解できているなど）をメディア授業の効果の指標とすることになりました。

次に、それぞれの要因や効果について実際に測定するための項目を作りました。要因については計二十二項目、効果については計六項目を作成しました。それぞれの項目に対して「自分がメディア授業を受けてみて学習効果があると実感したかどうか」を「1…全く学習効果はなかった」から「5…非常に学習効果があった」の五段階で回答を求めました。環境・生活習慣と効果については、「1…全く当てはまらない」から「5…非常によく当てはまる」の五段階としました。

調査は学生たち自身にインターネットを介して回答してもらい、二年生計四十六名の回答が集まりました。

②調査結果

次に結果の集計です。まず、学生たち自身が学習効果があると実感したのはどの要因だったのでしょうか。それぞれの要因に対する回答の平均値を計算した結果、教員の指導方法（三・九八）と学生の受講態度（四・〇八）が同じくらい高く、最も低いのは双方向のコミュニケーション（三・一三）でした（図1）。メディア授業が始まるたびに、直接会えなくてやり取りしにくいか、双方向性を確保しなくてはといった声もありましたが、

取りとなってしまうため学生たちはかなり苦労していましたが、とても頑張ってくれて、提出されたパワーポイントは全体的にかなり完成度の高いものでした。その一方で、直接コミュニケーションが取りづらいことによるグループワークの難しさや、個々の学生の事情や特性を考慮する必要性なども今後の課題として残りました。今回のメディア授業では、いろいろな苦労もありましたが、学生たち自身の底力を見ることができたような気がします。調査結果からも、メディア授業では対面授業以上に学生の自律的・主体的な学びが学習効果を高めることがうかがわれました。今回はコロナ禍というやむを得ない状況でメディア授業がスタートしましたが、改めて、学びについて考えるきっかけになったように思いました。

調査概要
実施時期：2020年6月25日～29日
回答者：生活心理専攻2年生46名
実施方法：manabaのアンケート機能を使用したインターネット調査

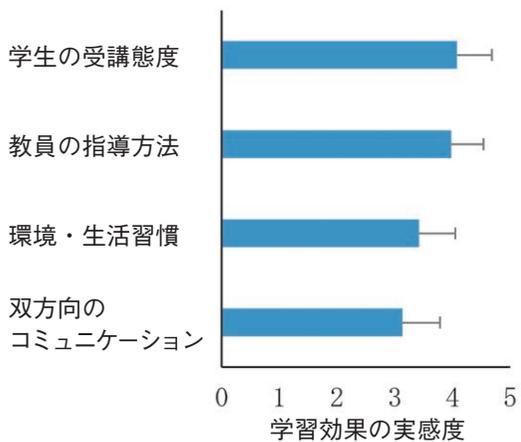


図1 学習効果を実感したかについての要因ごとの平均値（エラーバーは標準偏差）

補足資料2：manabaを使用したアンケートとグループワーク

チーム名	人数	最終コメント日時	コメント数	アクセス数	課題
Aチーム	6	2020-07-28 12:03	16	381	提出済み
Bチーム	5	2020-07-28 12:49	23	554	提出済み
Cチーム	5	2020-07-27 21:47	21	390	提出済み
Dチーム	5	2020-07-27 19:01	9	263	提出済み
Eチーム	5	2020-07-28 16:21	23	435	提出済み
Fチーム	5	2020-07-28 01:59	14	297	提出済み

補足資料1：調査内容について

表1 使用した項目一覧

<p>独立変数①：教員の指導方法 授業終了後、小テストを行う 教員が学生のコメントに対してフィードバックを行う 教員が前もって予定（スケジュール、課題）を提示する テレビ会議システム（Zoomなど）を使用した双方向型授業 オンデマンド形式の解説付き動画</p> <p>独立変数②：双方向のコミュニケーション 学生同士の話し合い、教え合いがある テレビ会議システムのチャット機能（公開）で質問を行う テレビ会議システムのチャット機能（教員個人宛て）で質問を行う テレビ会議システムでビデオオン（顔出しあり）でディスカッションを行う テレビ会議システムでビデオオフ（顔出しなし）でディスカッションを行う</p> <p>独立変数③：学生の受講態度 自宅で都合のよい時間帯に自分のペースで視聴できる 理解できなかった点を繰り返し視聴できる 自分で学習計画を立てて受講する 人の目を気にせず学習できる 体調が悪くても自宅で受講できる</p>	<p>独立変数④：環境・生活習慣 同じ時間に起床している 朝食をとっている 十分に睡眠をとっている 定期的に運動をしている 無音の環境で授業を受けている 部屋が散らかっている（※） 問題なくインターネットに接続できている</p> <p>従属変数①：モチベーション 集中力が持続しない（※） 課題を提出できている 欠席がちである（※）</p> <p>従属変数②：理解度 対面授業に比べて授業内容がよく理解できている 対面授業に比べて質問しやすい 対面授業に比べて授業内容を理解するのに時間がかかる（※）</p> <p>（※は逆転項目）</p>
--	---

表2 項目同士の相関係数（一部を抜粋）

「課題を提出できている」との相関	
自宅で都合のよい時間帯に自分のペースで視聴できる	.38
オンデマンド形式の解説付き動画	.35
「授業内容がよく理解できている」との相関	
自宅で都合のよい時間帯に自分のペースで視聴できる	.50
オンデマンド形式の解説付き動画	.47
自分で学習計画を立てて受講する	.36

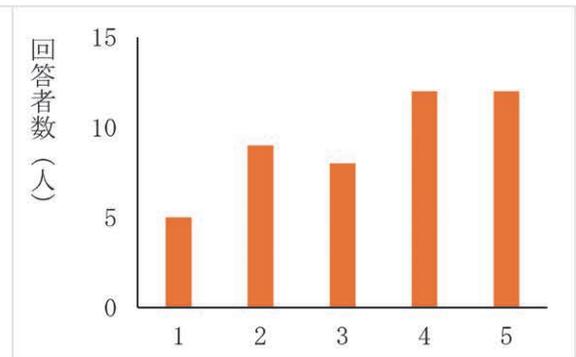
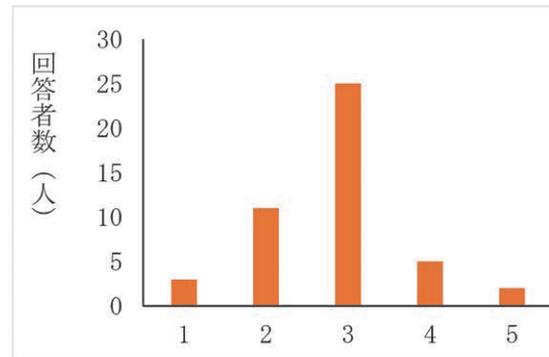


図2 「対面授業に比べて授業内容が理解できている」への回答

図3 「対面授業に比べて質問しやすい」への回答

注) 1：全く当てはまらない～5：非常によく当てはまる それぞれの選択肢を選んだ回答者の人数を示す。

■メディア授業が気づかせたこと

本学生活文化学科 教授 田中 正浩

学びを止めない！

コロナ禍で入学式もオリエンテーションもなく幕を開けた本年度でしたが、「学びを止めない」を掲げ、学修機会確保のため緊急避難的にメディア授業を展開してきました。いまでもこメディア授業に新たな学びの方法、学びの場を見出そうと少し余裕をもってこれまでを振り返りますが、当初は焦りと不安のなか授業に取り組んでいました。「できる範囲で、できることから」と言い聞かせながら。

後期に入り、すべての教科が対面授業に戻ったわけではありません。逆に、すべてがメディア授業に戻ることはないと言いつい切れない状況にあるとも言えます。だからこそメディア授業の導入前後をしっかりと見つけ直しておく必要があると思うのです。このような作業は、なによりも授業の質、教育の質を高めることに資することであり、さらには、メディア授業の可能性を見出すことで、教科によっては、今後の積極的な活用に繋がっていくことにもなるでしょう。このような事態を問わずも大学の教育の在り方に様々な可能性と示唆を与えてくれた機会として捉えることが重要であり、このことは教職員で共有されています。ここでは、私の周辺から得たこと、とくに学生からの声をもとにメディア授業によって気づかせられたことについて記

していきたいと思えます。

学生の声から

本学では、教員が授業資料や授業ビデオ、課題を配信し、学生が自由に時間、場所を決めてアクセスすることで学修可能なオンデマンド型と、教員が教室や研究室、あるいは自宅からビデオや音声を使い、リアルタイムで授業を配信し、学生は自宅などでビデオや音声を受信する同時双方向型の、二つの授業方法を採用し、メディア授業の両輪として展開してきました。教員は、対面授業も含め、これら授業法において指摘されているメリット、デメリットを踏まえ、工夫しながら時間と労力をかけ準備していきます。一方、パソコン、タブレット、スマートフォンに向かって授業を受けてきた学生たちがいます。学生たちは、このメディア授業をどのように受けとめ、どのように感じ、考えていたのでしょうか。

後期、対面でスタートしたゼミのことです。「大変だったね」と労いながらメディア授業について尋ねてみたところ、ひとりの学生が、私にはメディア授業が合っていると、メディア授業で力がついたと感じていると言っていました。授業や課題に対して、他に頼ることなく自身で調べ、考え、回答していくことで、これまでにない能動的な学修ができたと言っています。だから成績も上がりました。オンデマンド型授業は、時間の融通が利くとともに学修への取り組みをルーティン化できるよさがあること、そして能動的な学修を実感できることでさらにモチベー

ションが高まると言っています。一方で、オンデマンド型授業によって自己管理、時間管理が自分には難しいことに気づかされたこと

話してくれた学生もいました。次々と配信される授業資料を読み込み、理解をもとに課題に取り組むといった一連の学修がスムーズに進まず、なかなか立て直せず苦勞した。先の学生とは対照的に、当然成績は下がりましたと付け加えてくれました。

対面授業との比較においては次のような話をしてくれました。教員が目の前にいて、周囲に学生がいる対面授業の方が集中でき、むしろひとりで画面に向かうのでは集中が続かず、集中力のなさに気づいたと。教室で周りを学生が囲み、教師の傍で学ぶ方が落ち着き、集中できると言っています。教室で学ぶことの意味、意義を改めて考えさせられました。友人や教員と出会い、リアルに交流できる教室というのは、学生が落ち着き、集中できる場なのかもしれません。

一年次後期の初回授業では、はじめて顔を合わせる学生から授業でグループ活動、いわゆるディスカッションなどをしてほしいとの申し出がありました。授業ではあるが同じ専攻、学科の学生として互いを知るきっかけをつくりたいとの理由でした。そのような機会が前期にまったくなかったため、つくっていただけなら嬉しいと言っています。聞いていた周囲の学生も同様に求めてきました。学生たちの素直な思いが響いてきました。学生同士、また、教員とのコミュニケーションの機会が確保されていたことに対して不満を示すより、いかにしたらそのような機会が得られるかを考えていたのです。

今後に向けて

メディア授業の可能性や課題を踏まえた、今後の運用については全学的な検討を待つとして、僅かばかりの学生の声であっても、その気づきから教えられることはあります。学生のメディア授業への評価は、自分の時間で、自分のペースで学修できる環境といったものが能動的な学びを実感させてくれたということであり、それがさらなる成長へ繋がると感じられました。そして、今回、教員も学生も新たな現実を受け入れる適応力や想像力によってメディア授業に対応してきました。この適応力、そして想像力こそが学びを継続するために不可欠な能力と言えるのではないのでしょうか。

学生の出校禁止という不可避的な状況によって、オルタナティブな授業を選択せざるを得なかった現状を捉えて展開してきたメディア授業ではありますが、今状況が収束して、すべての学生がキャンパスに戻っても、恐らくこの経験を活かし対面授業とメディア授業が併用されることになるでしょう。もちろん緊急避難的にメディア授業を導入したときとは異なり、そのメリットを活かすということにおいてですが、今後も、適応力と想像力をもって学生の学びを支援していければと思う次第です。





■ 保育実習の補講演習

本学生活文化学科 専任講師 大澤 朋子

令和二年度は全国の保育・教育・福祉現場にとって、また保育士・幼稚園教諭養成校にとって忘れがたい年になりました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、本学でも保育実習・教育実習の延期や中止、それに伴う代替措置に追われ、薄氷を踏むような思いで日々過ごしております。このような状況にもかかわらず、感染予防対策を講じながら本学の実習を受け入れてくださった協力園・施設の皆様には改めてお礼申し上げます。

幼児保育専攻幼保コースでは、例年三年生の六月に保育実習（保育所）、四年生の六月に教育実習（幼稚園）、その後夏から秋にかけてそれぞれ保育実習（児童福祉施設・保育所）を実施してきました。今年度、私が担当する保育実習（児童福祉施設）は三・四年生合わせて五十一名が受講しており、昨年度末までに児童養護施設、乳児院、児童発達支援センター、医療型障害児入所施設、児童館などでの実習受入が内定していました。四月に緊急事態宣言が発令されると、本学でも入構制限措置やオンライン授業への変更を余儀なくされたことで、まず六月の保育実習・教育実習の延期が決定しました。同時に感染予防対策と実習に関する本学科独自のガイドラインを作成し、学生と実習園に周知しました。施設実習では受入状況についてのアンケートをお願いしたところ、いくつかの施設から今年度の実習受入が難しい旨、また多くの施設から感染拡大状況次第では実習中

通して、学生たちは学齢児童の放課後支援や地域子育て支援の実際、不登校児童生徒への学習保障や、とくに困難な状況にある親子への物心両面での支援の必要性を学ぶことができたようです。

また、実習時間の不足する五名の三年生には、日野市しんめい児童館の協力を得て、三回のイベント活動を企画・実践してもらうことにしました。小学校低学年の子どもたちを対象とした遊びを企画するため、事前に活動の場となる児童館を見学し、季節に応じた製作活動を計画しています。一〇月二十七日には第一回として、ハロウィンにちなんだクイズとカボチャのお面づくりを行いました。イベント時間は二時間でしたが、当日は朝から直前まで準備に取り組み、しんめい児童館の朝熊館長との振り返りの会まで含め、終日の活動となりました。学生たちは緊張しながらも、それぞれの得意分野を活かして子どもたちと関わり、次回への課題も発見した様子です。

さらに、実習時間の不足する学生を対象とした補講演習も計画しています。十二月には児童養護施設、乳児院、児童家庭支援センターの職員を特別講師としてお招きし、社会的養護の現状と保育士業務の実際、ケアワークからソーシャルワークへの変革期にある社会的養護が行う保護者や地域の子ども支援の実際についてご講義いただく予定です。実際の現場に身を置く体験は何にも代えがたいものではありますが、少人数の演習形式で行うこれらの補講プログラムが、学生たちにとって充実した学びの機会となることを期待しています。

止となる旨の回答をいただきました。これを受け、六月から実習施設の一部変更、新規依頼とともに、実習中止となった場合の代替措置の検討が始まりました。保育士資格を所管する厚生労働省は六月十五日付で「養成施設にあつては、新型コロナウイルス感染症の影響により実習施設の受け入れの中止等により、実習施設の確保が困難である場合には、年度をまたいで実習を行って差し支えないこと。なお、これらの方法によってもなお実習施設の代替が困難である場合、実状を踏まえ実習に代えて演習又は学内実習等を実施することにより、必要な知識及び技能を修得することとして差し支えないこと。」との通知を発出しています。これを受け、学生間の公平性が担保できないとして施設実習を全面中止する養成校も出てきました。しかし本学では可能な限り現場実習を実施し、事後学習も含め体験を互いに共有することが学習機会の保障になると考えています。実習日程の延期も検討しましたが、施設数が限られ日程変更が難しいことから、受入可能な限り予定通り実施することにしました。九月に入り、実習中止となる施設、日程短縮となる施設が相次いだことから、いよいよ実習に代わる補講プログラムを実施することになりました。施設実習を全く行えなかった三名の三年生については、少しでも現場体験を持ってもらうため、保育実習には対応していない機関での五日間のボランティア活動に参加してもらいました。幸い、学生の暮らしている地域の児童館や、大学近隣の社会福祉法人が運営する無料の学習塾がボランティア学生を受け入れてくださいました。これらの体験を

最後になりましたが、年度途中のお願いにもかかわらず実習やボランティアを受け入れていただいた施設の皆様、講師派遣をご快諾いただいた施設の皆様、補講プログラムの実施に理解を示していただいた実践女子大学と生活文化学科に感謝申し上げます。



日野市しんめい児童館での活動の様子



■「コロナ禍での実技授業の取り組み」 〜「体育」において大切にしていること〜

本学生活文化学科 教授 島崎 あかね

二〇二〇年一月以降、日本だけでなく全世界で混乱を招いた新型コロナウイルス感染症は、私たちの日常生活を一変させました。緊急事態宣言によって、通勤・通学を始めとする外出も自粛を余儀なくされ、本学も一時はキャンパスが閉鎖となり、五月中は全ての授業がオンラインで実施されることになりました。私が担当する「体育」「健康スポーツ科目」といった実技授業は、授業内容で扱うスポーツ種目の多くがオンラインで実施するのは難しいものでした。しかし、六月以降に一部解禁となった対面での授業実施に向けて、感染防止対策を始めとするさまざまな準備を進め、対面授業の実施に至りました。ここではコロナ禍という状況であっても、なぜ対面授業を実施したのか、「体育」という科目の特性や教育的意味などを含めて、対面授業を実施するうえで大切にしていることを挙げてみたいと思います。

「体育」は、幼児保育専攻二年生の必修科目で、幼児期の運動遊びと小学校体育の連続性を体験的に学ぶ授業です。乳幼児は日常生活における遊びや活動を通して、心身の発達に必要な経験を積み重ねていますが、身体を使った遊びに含まれる多くの基本動作を習得し洗練させていきます。それと同時に、遊び続ける体力や瞬時に身体の変えるといった瞬発力や敏捷性といった身体能力を発達させたり、判断力や思考力といった

体験的に学べるようにしました。履修した二年生の中には、感染拡大が終息していない状況で対面授業に出席することに不安を抱いた学生もいたと思いますが、子どもたちが生活する保育・教育現場では『新しい生活様式』の中でどのような遊びや身体活動が展開されているのかを体験的に理解し、保育者や教員として必要な知識を修得してもらえようように努めました。また、学生自身も外出自粛期間や多くの授業がオンラインで実施されたことにより、通学による移動も含め身体を動かす機会が極端に少なくなり、一日の大半をパソコンの前で過ごすなど運動不足を実感したり、これまで何気なく行っていた友人との会話などが日常生活から消失してしまったことによる不安感の増大などが、心身の健康状態にどれだけ影響を与えているのかについても感じたものと思われまます。画面越しでなく直接顔を見ながら会話することで得られる心の充実感、日常生活における身体活動や運動によって得られる健康の保持増進など、「体育」の指導内容は、技能を身に付けるだけでなく、協力・公正などの態度や自分に合った課題を持ち、その解決に向けて取り組む思考・判断をバランスよく育むことで、「確かな学力」や「豊かな心」、「健康・体力」など『生きる力』すべてを育むことができる唯一の教科であることを踏まえて実施することを心掛けています。

コロナ禍における『新しい生活様式』を送る中であっても、教育現場における対面授業がもたらすさまざまな効果や、人が直接かかわることの必要性などを実感できるような授業への取り組みが大切であることを、将来保育者・教育者を目指す

知的側面、スリルや楽しさといったさまざまな情緒、友達と協力したりルールを守るといった社会的な側面を育んでいます。このように、乳幼児期の発達段階に応じた遊びや身体活動が小学校体育にどのような連続性を持っているのかを実際に実技を通して学ぶため、授業区分としては講義科目ですが実技を多く含む授業です。つまり、実際に身体を動かすことで得られる心身の変化や他者とかかわりを持つことで、協働力や社会性などを育むことが必須となっています。コロナ禍の今年度はこれらの教育目標を達成するため、理論的な内容はオンライン授業で行い、六月以降は対面授業に切り替えて実技を中心とした授業を展開しました。もちろん、換気や消毒といった施設・設備面における感染防止対策を講じると同時に、実技内容も「密にならない」「工夫や種目の変更等は必要でしたが、できる限り身体を動かすことや他者とかかわることによって得られる学びが深まるように進めました。例えば、「体育」の領域にはボールや縄、フラフープといった用具を使った運動(運動あそび)がありますが、その用具は必ずしも人数分が用意されているわけではないため、二人以上で一つのボールを使ったりするなど、多くの用具を共有します。その場合は使用後に消毒や手洗いを徹底したり、二人一組でペアになる活動やチームで競い合う内容の場合は、直接手を繋がずに間隔をあけるなど『ソーシャルディスタンス』を守るようにルールを変更しました。そうすることで遊びや活動を友達と一緒にしながら、前述した身体能力の発達や社会的側面を育み、日常生活における子どもたちの遊びや身体活動を

幼児保育専攻の学生に伝えていきたいと考えています。



実技授業後の消毒作業の様子



■ 幼児保育専攻一年生初の対面授業 「保育活動の実際a」

本学生活文化学科 助教 越山 沙千子

幼児保育専攻一年次前期開設科目「保育活動の実際a」（保育士資格必修、全十五回）では、音楽表現とピアノ弾き歌いを学びます。二〇二〇年度は、新型コロナウィルス感染拡大の影響により、第一～六回はメディア（オンデマンド型）授業を、第七～十一回は対面授業を、第十二～十五回はメディア（双方向型）授業を実施しました。前期の数少ない対面授業実施科目となり、幼児保育専攻の一年生の多くは、六月にこの授業のために入学後初めて大学に登校し、初めて同級生と会いました。学生が登校し、受講するにあたり、筆者自身も試行錯誤の日々でした。本稿では、授業の概要、対面授業を実施するために行った感染防止策、学生の様子についてご報告いたします。

① 授業概要

この授業は演習科目ですが、メディア授業に対応するため当初予定していたシラバスを変更しました。第一～六回のオンデマンド型授業では、楽譜の読み方や童謡・唱歌の解釈について学ぶとともに、子どもと音にかかわる動画を視聴し、分かったことや考えたことをまとめました。

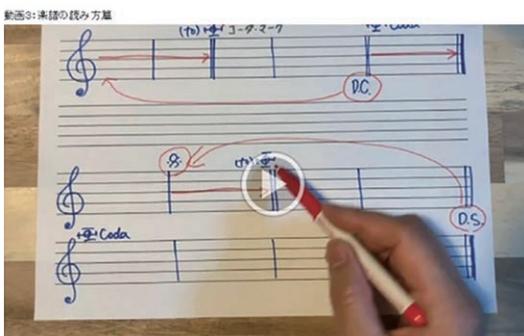
第七～十一回の対面授業では、音楽表現を考える上で重要

ンを継続させるため、自宅で練習ができない学生に電子ピアノを貸し出したり、課題提出期限を夏休み終了まで延長したりするなどの配慮をしました。学生には動画を提出してもらい、コメントだけでなく楽譜に書き込みをしたり、動画で模範演奏を送ったりしてフィードバックを行いました。

② 対面授業実施に向けた感染防止策の作成

音楽では歌ったり、共用の楽器を使って演奏したり、身体接触を伴う活動が想定されます。対面授業実施前の五月に、日本合唱連盟や東京都合唱連盟のガイドラインなどを参考にし、弾き歌いのレッスンにおける教員と学生との距離や位置関係を検討しました。また、ピアノをはじめ多くの楽器はアルコール消毒ができません。ピアノの鍵盤は、アルコールで拭くとひび割れを起こします。そのため、手洗いが重要なのですが、楽器のお手入れの面でもできることはないかと、いつもお世話になっている調律師の方にご相談し、水拭き、もしくはアルカリ電解水を布に吹きかけてから拭き上げる方法を勧めていただきました。授業では、使いやすさからアルコール電解水を使用しています。その後、ヤマハやカワイからもガイドラインが発表されました。楽器メーカーや演奏団体、音楽大学、研究所から出されるガイドラインは日々更新されています。引き続き情報収集・共有をしていきたいと考えています。

こうした情報収集とこれまでの授業における活動から、授



画像1：オンデマンド型授業



画像2：弾き歌いレッスン

となる概念を学びながら、身体や身の回りのモノを使った表現活動も行いました。特に、新聞紙を使ったグループ活動では、学生たちが話し合いながら、身体を動かしながら夢中になって活動する姿が見られ、とても盛り上がりました。また、弾き歌いのレッスンも行いました。

第十二～十五回の双方向型授業では、事前に持ち帰ってもらっていた楽器について、楽器と知らない子どもだったら何をやるだろうかを考え、ディスカッションを行いました。また、コードネームを手がかりに、自分なりに伴奏づけをする方法について学びました。

弾き歌いについては、双方向授業に切り替えた後もレッス

業で対応すべきこと、学生に行ってほしい、注意してほしいことをまとめた感染防止策を作成し、学生、教員、大学に周知、共有しています。音楽室ではこれまで二重窓、二重扉を閉めて授業を行ってきましたが、窓と扉を開けた状態での音漏れの状況を確認し、先生方にご理解いただきながら常時換気した状態で授業を行っています。また、学生がレッスン室で個人練習を行う場合は、個々の部屋に窓がないこと、レッスン室が住宅側に位置していることを考慮し、一回の使用時間を三十分とし、その後十五分の換気時間を設ける、同じ部屋を連続して使わないというルールを定めて使用を許可しています。

③ 学生の様子

学生たちは、混乱した状況においても学ぶ意欲をしっかりともち、努力をしていました。また、授業を成立させるために、様々な面で協力をしてくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。対面授業では、友だちと会えた喜びを素直に表現する学生たちの姿が見られました。筆者もそうしたにぎやかな様子を見て安堵した一方で、授業アンケートでは「唯一の対面授業がメディア授業に切り替わってショックだった」、「対面授業が良かった」というコメントも見られ、対応の難しさを感じています。この経験を通して、メディア授業による学びの可能性も感じつつも、生身の人間同士でかわりあうことの大切さや心地よさを改めて実感した四か月間でした。

II

学生の声拾う

～学生の様子・学科の取り組み～

- 一年生全員面談より考える
コロナ禍での大学教育の課題…………… 32
細江 容子 本学生活文化学科 教授
- オンライン環境での1年生の学び
Zoomでの授業 …………… 34
渡辺 敏 本学生活文化学科 准教授
- コロナ禍の中の「卒業論文中間発表会」 …………… 36
松田 純子 本学生活文化学科 教授

■ 一年生全員面談より考える コロナ禍での大学教育の課題

本学生生活文化学科 教授 細江 容子

本稿で細江が与えられたテーマは「一年生の全員面談より」であり、そこから学生の声を拾うことである。ここでは「学びを止めるな！」の主テーマと関わり、大学教育とはなにか、さらにCOVID-19の問題によりウェブ授業となった大学で、学生同士や教員と学生が対面で会えないことになりにが課題となっているのか、学生の声を基にその課題を考えてみたい。

一・大学教育の意味

大学教育は実際にどの様に学生達に影響を与え、それによってどの様に学生達は成長していくのであろうか。COVID-19の問題で四月からウェブ対応の講義となり、学生と実際に対面で会うこともないまま授業がスタートした。大学教育の中軸となるのは、先ず専門的な知識やそれに関わる能力の獲得であり、また個々の学術的専門領域とは別に、汎用的な能力や技能を身につけることであり、さらに自己認識すなわち、「人格」形成に関わる事柄であるといえる(金子 二〇二一)。

これらを行うことが大学教育の根幹をなすものであるといえるが、その教育におけるキャンパスの価値とは島津が『新型コロナウイルスと共存する時代の大学と生協の役割を議論』でも述べる様に「偶然の出会い」や「予想外の発見」を意味する「セレンディ

ピテイ」にあるといえよう。すなわち、キャンパスに集う学生同士や学生と教員との出会いとそのコミュニケーションの中で、偶発的に生まれるアイデアなどは、大学教育にとって大きな価値を持つと考えられている。さらにその中で生じる社会の信頼関係、規範、ネットワークといった社会組織の重要性を表す「ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)」は、オンラインの活動だけで築くのは難しく、物理的な空間としてのキャンパスの意味は大きいといえる。

二・全員面談で見えてくる大学教育の課題

感染拡大が続く中で実施された生活心理専攻一年生との全員面談で見えてきたことは、安定した暮らしや大学での学びを維持するための生活費や学費の不安と関わる「学生の暮らしの問題」であり、専門的、汎用的知識や演習や実習など関わる「大学における学びの問題」、さらに友達が作れない孤独や学び合えないなどの「セレンディピテイ」や「ソーシャル・キャピタル」と関わる「大学コミュニティの問題」の「三つの問題」としてとらえられる。

一年生にとって、学びの環境として端末やネットワーク環境などハード面の対応が進みつつある一方で、面談で示されたのは、オンライン学習ならではの大学における学びに関する疲弊の問題である。学生の声から示された課題は、大学コミュニティの形成であり、オンラインだけでは構築できない、「セレンディピテイ」と「ソーシャル・キャピタル」と関わる問題であると分析できる。

特に、ソーシャル・キャピタルに関しては芳賀(二〇一六)

が示す様に、ソーシャル・キャピタルおよび主観的ソーシャル・キャピタルが学生の主観的ウェルビーイングの程度を改善するということである。これに基づけば、本学の様に互いに信頼し支え合う校風の大学にいる学生の主観的ウェルビーイングは、高いといえ、その物理的空間であるキャンパスは、ソーシャル・キャピタルに基盤づいた多様なコミュニケーションにより、主観的ウェルビーイングを高めることに貢献している。大学での対面による仲間・サークルなどの友人関係、さらには学生と教員との関係により、学生のウェルビーイングが達成されやすいと考えられる。一年生が抱えている学びにおける孤独感や閉塞感、彼女らが述べたイヌやネコとの関係では解消できない大学の物理的空間を基にして生成される「セレンディピテイ」と「ソーシャル・キャピタル」に関わる問題である。対面で実際に会う事のできない学生に対し、それをいかに大学側が提供できるかが課題となる。

中学生を対象とした研究ではあるが、認知的ソーシャル・キャピタルが精神的健康に好影響を与えるという朝倉(二〇一一)の研究や、市来(二〇一五)のソーシャル・キャピタルと関わる研究で、認知的ウェルビーイングが精神的健康に好影響を与えているといった知見が示す様に、キャンパスにおけるソーシャル・キャピタルの意義は極めて大きいといえよう。

さらに、キャンパスに集う学生同士や学生と教員との出会いによるコミュニケーションの中で、偶発的に生まれるアイデア

や思考の新たな展開などは大学教育にとって大きな価値があるといえる。新入生の大学への不応を予防し精神的健康を高めるために本学科では、ガイダンスをはじめ先輩や教員との昼食会を通じての懇談により、学生相互や上級生との親睦や教員との信頼感を高めるための試みが毎年実施されている。しかし今年度はCOVID-19によりそれを実施できない状況での新学期のスタートとなった。

大学がコロナ禍の中で、どの様に学生同士、教員と学生をつなぐ役割を果たしうるかが今日大きな課題となっている。

【参考文献・資料】

- ・金子元久(2012)「大学教育と学生の成長」名古屋高等教育研究第12号 211-236
- ・「新型コロナウイルスと共存する時代の大学と生協の役割を議論」<https://project.nikehpb.co.jp/pc/acfd/19/06/21/00003/083100125/<2020.10.5参照>>
- ・芳賀道匡、高野慶輔他(2016)「大学生活におけるソーシャル・キャピタルと主観的ウェルビーイングの関連」心理学研究 第87巻第3号 273-283
- ・朝倉隆司(2011)「中学生における近隣の地域環境の質、個人レベルのsocial capitalと抑うつ症状との関連」日本公衆衛生雑誌 58(6) 754-757
- ・市来百合子、瓜生淑子他(2015)「中学生における認知的・構造的ソーシャル・キャピタルと精神的適応の関係」次世代教員養成センター研究紀要1 183-188
- ・ベネッセ教育総合研究所(2008)「第一回大学生の学習・生活実態調査報告書」ベネッセ教育総合研究所
- ・武内清(2003)「キャンパスライフの今」玉川大学出版部

■ オンライン環境での一年生の学び Zoomの授業

本学生生活文化学科 准教授 渡辺 敏

一、入学前から入学後、一か月のオンライン環境

本年度のオンラインでの指導は二月の入学前課題から始まりました。まず、年内入試で入学が決まった一年生向けに、担任の細江先生と渡辺で選んだ課題図書について感想文を提出する課題を出しました。一年生は自分で選んだ一冊の感想をmanabaに書き込み、そこに担任が返信をしました。全員が閲覧可能な設定にしてみましたので、一年生は自分と同じ本を選んだ友達の感想を読むことができました。

続いて始めたのが、「自己紹介」です。一年生は自分の好きなアーティストや趣味などを自由に記述していききました。このように、入学前に一年生が大学にしっかりとつながるよう取り組んだうえで入学式を迎える準備をしていました。入学前はmanabaを使ったオンラインでのやり取りに大きな問題点はありませんでした。

コロナの感染拡大のため、四月からはすべての授業がオンラインになり、一年生は大学に来て友達や先生とつながることができずに、入学前から引き続いてオンラインで大学とつながっていくことになりました。初めの難関は、「履修」です。例年、対面で指導していても間違いが多かった履修を、オンラインで行いました。当然、間違いも多く起こりました。manabaを通

二、個人面談で分かったオンライン環境

六月末に、細江先生と渡辺でそれぞれ生活心理専攻と幼児保育専攻の一年生とのZoom個人面談を行いました。普段の授業では画像をオフにしている学生にも、この面談ではお互いの顔が見られるようお願いして面談を始めました。面談では学習状況やWi・Fi環境、自宅での過ごし方など、多岐にわたって話を聞きました。Wi・Fi環境については、ほとんどの学生が問題ないと答えていましたが、PCではなく、スマホで授業に参加している学生も多くいることが確認できました。すべてのオンライン授業をスマホで見るとは、目の疲労など問題点も多いのではないかと推察されました。自宅での過ごし方は多様でした。自宅から通う予定でいた学生はステイホームを守り、自宅での過ごし方を工夫していることが分かりました。日野で一人暮らしを始める予定でいた一年生は、前期途中から対面の授業も始まること分かっていたため、いつ上京できるのかといった不安を抱えていることも分かりました。一人暮らしを始めれば、新しい暮らしに慣れるまでの不安も重なります。いくつもの不安を抱えながら毎日、manaba、Gmail、大学のHPを確認しなくてはいけないため、苦労も大きかったことと思います。相談できる友達も近くにいないため、高校生の時の友達と励まし合いながら過ごしているという一年生もいました。

三、オンラインの授業

前期の授業はほとんどがオンラインで行われましたが、ここでは一年生の「入門セミナー」についてご紹介します。例年

して助手さんに確認していただき、先生方からもアドバイスを頂き、何とか全員が履修を終えることができました。続いて、オンラインでの授業の開始となりました。自宅にWi・Fi環境が整っていないかった学生さんもいて、授業に全員がそろわない状況がしばらく続きました。大学に来て直接学生と話ができれば済む問題も、オンラインでは簡単には解決できませんでした。学生から直接、相談や訴えがない限り、学習状況を教員が把握することは難しく、どうしても対応が遅れてしまいます。manabaを使って連絡しても返信がない場合は、直接電話でのやり取りをしてお対応することも少なくありませんでした。大学からのPCの貸し出しや自宅のWi・Fi環境整備のための資金貸与等もあって、実際に一年生全員が授業に参加できるようになったのは、六月になってからでした。

オンラインでの授業は、一年生以外の各学年でも行っていました。一年生が他の学年と全く違う環境であるのは、お互いの友達関係ができていないという点でした。二年生以上の授業では気軽にZoomのグループ学習や意見交流ができましたが、一年生はお互いの関係ができていなかった分、難しさ、取り組みにくさも多かったのではないかと思います。それでも、自宅に居ながら同じ学科の同級生とつながっているという思いは、「大學生になった」という実感を大きくしてくれていたようです。六月末に行ったZoom個人面談では、オンデマンドの授業よりも、Zoomを使った双方向の授業にやりがいを感じる感想が多く寄せられました。

この授業の中には、先生方や二年生と親しくなるフレッシュマンキャンプも含まれていますが、今年度は実施できませんでした。そこで、一年生担任と大澤先生、越山先生を加えた四人で、それぞれ二十五名ほどのクラス運営を、連携を密に行うことにしました。

この授業では、これから始まる大学での学びの基礎となるレポートの書き方について学習を進めました。オンラインでの授業はとかく、教師から資料をオンラインで見せることが多くありますが、教科書を各自が持てたことで、画面をずっと見ることなく学習が進められたことはよかったですのではないかと思います。

はじめに、それぞれの好きなアーティストやタレントや俳優について紹介するという課題を出しました。この学習は「入学前課題」で行った自己紹介をヒントに設計しました。お互いの興味関心を共有するとともに、相手に伝わりやすい文章を書くという二つを目標としました。自分の好きなことについて書けるということ、熱い思いを文章に表現していることが読み取れました。十五回目の最終回に「入門セミナー」の感想を全員に聞きました。毎回、レポートを書くことは大変だったが、頑張った最後まで取り組めて自分の文章力が向上したことが実感できたという感想も寄せられました。

前期にオンラインでたくさん苦労をした一年生ですが、前期の学びの経験を活かし、後期は少し余裕を持ってオンラインの授業に取り組んでいるようです。

■ コロナ禍の中の「卒業論文中間発表会」

本学生生活文化学科 教授 松田 純子

多難の最終学年

令和二年度は、誰も想像しなかったようなコロナ禍の中で始まりました。入学式も中止となり、各学年のオリエンテーションも実施されずのまま、オンライン授業が行われることになりました。特に新入生のみなさんは、大学生活のスタートが未曾有の事態となり、不安や戸惑いを感じながらの大変な船出だったことと思います。また、それと同時に、四年生の担任としては、大学生活の最後の一年をコロナ禍の中で迎えることになった四年生のみなさんの巡り合わせを思わずにはられません。実習、就職活動、卒業論文と、四年生として取り組むべき重大な事柄があるところに、想定外のコロナ禍が広がり、これまでにない多難な最終学年となりました。

中間発表はできるのか

四年間の大学生活の締めくくりと位置付けられるのが「卒業論文」です。生活文化学科では、この卒論は卒業必修科目です。自身が選んだ研究テーマの下、長い時間と手間をかけて調査し、仮説を検証したり、答えを探求したり、自分なりの結論を導き出し、研究論文としてまとめていきます。修得単位数は六単位。半期の講義科目が二単位、演習科目が一単位であることを考え

発表会に参加できなかった学生は、その後二回に分けて発表会を追加開催することで、発表の機会を保障することになりました。また、一名については、遠隔地よりオンラインでの発表を行いました。

中間発表会の意義

卒論生、特に卒論の進捗が芳しくない学生にとって、中間発表会は厳しいながらも、卒論推進の契機となるイベントです。まだ漠然とした状態であっても、改めて問題の所在、研究の目的、方法などを明確にする必要があります。そして、先行研究のレビューも含め、それまでの調査結果や考察の内容などについて発表しなければなりません。また、短い時間ではありますが、発表内容についての質疑応答も、新たな気づきを得られる貴重な時間です。一人あたりの発表時間は五分、質疑応答の三分と合わせて、八分の持ち時間ですが、会場全体で四、五時間に及ぶ仲間の発表に臨席することは、大きな刺激となるに違いありません。

中間発表会でも、例年、下級生の参加が呼びかけられています。ゼミの先輩の発表や、事前に配信される要旨集を見て興味を持ったテーマの研究発表を目当てに、四会場から選んで参加します。下級生たちにとっては、先を行く先輩の姿を一年後、二年後の自分自身に重ね、気持ちも引き締まるようです。また、先輩の方では、教員や同級生だけではなく、後輩たちの前でもありますから、不甲斐ないプレゼンテーションは見せられません。

ると、卒論の六単位は大変重みがあります。本学科では、十一年以上前から、最終の卒論発表会だけでなく、十月に中間発表会を開き、全員が研究の進捗状況を報告すると共に、同じ学科の仲間や教員に批評や助言をもらう機会を設けてきました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の収束の目途が立たない中で、今年度は中間発表会が開催できるのかどうか。前期終盤までは、感染予防のため三密を避けて、ウェブ会議システムを利用した開催を検討していました。しかし後期には、実学系の生活科学部を擁する日野キャンパスでは、対面授業も増え、本学科の卒論中間発表会も対面で実施することになりました。

実習で参加できない

中間発表会の開催が危ぶまれたのは、感染症拡大の恐れだけが理由ではありません。実は、幼児保育専攻で前期に予定されていた保育実習と教育実習は、すべて後期に延期されてしまいました。各実習先との再調整の結果は、後期終盤にまで及ぶ、五月雨式の実習スケジュールでした。生活心理専攻の学生たちが、就活を抱えながらも、オンラインや対面で指導を受けて卒論を進めている間、幼児保育専攻の学生たちは、二つの実習の準備と卒論と就活を同時進行で進めていかなければならない上に、中間発表会当日は、実習中あるいは実習前の健康観察のための自宅待機期間にあたり、参加できない学生が専攻全体の三分の一という状況でした。結局、予定された十月十五日の中間

今回も、発表者はスーツを着用し、良い緊張感に包まれて、本発表会さながらの発表が行われました。

卒論完成、そして本発表へ

本稿執筆時点で、今年度の卒論生全員が無事に卒論を提出できるかどうか、まだ分かりません。しかし、コロナ禍の中だからこそ、様々な困難があるからこそ、今年度生には是非とも卒論を完成させ、晴れやかに卒論発表会でそれぞれの成果を発表してほしいと願っています。

2020年度
実践女子大学
生活科学部生活文化学科

卒業論文中間発表会
プログラム・要旨
Aグループ

日時：2020年10月15日(木) 13:15～
場所：IV422(Aグループ)、IV423(Bグループ)
III341(Cグループ)、III342(Dグループ)
時間：発表5分、質疑3分、移動2分程度



Ⅲ

現場と学生をつなぐ ～大学から社会へ～

① 学生の就活体験記

- コロナ禍での就活体験について [インタビューより] … 40

青山 菜々子 本学生活文化学科 生活心理専攻 4年

- 私の就職活動と就活エージェントの存在 …………… 42

長田 真由子 本学生活文化学科 生活心理専攻 4年

② 幼児保育専攻幼小コース 小学校教員採用試験奮闘記

- 幼児保育専攻 幼小コース
小学校教員採用試験奮闘記 (第七期生を中心に) …… 46

南雲 成二 本学生活文化学科 教授

③ OG 座談会

- OG 座談会：コロナ禍での保育・教育の現状 …………… 48

井口 眞美 本学生活文化学科 准教授

■「コロナ禍での就活体験について」インタビューより

生活文化学科 生活心理専攻 四年 青山 菜々子

(新型コロナウイルス感染症流行下での就職活動について、青山さんにインタビューを行いました。)

就職活動で、大変だったこと、苦労したことはありますか？

オンライン面接が大変でした。目の前に人がいない状態で、カメラを見ながらの面接は最初のうちは苦労しました。オンラインだと声色が変わってしまうとか、メイクしているつもりでもカメラを通すとメイクしているように見えないということもありました。

オンライン面接については、キャリアセンター主催の就活イベントに参加しました。そこで外部の方をお呼びしての面接練習を受けました。この練習でだいぶ変わりました。たとえば、カメラを見て、ハキハキと大きい声で話すこと、部屋の明るさやカメラの角度、映り方などについてのアドバイスもしていただきました。また、声の聞こえ方についても、マイクの音量を上げてくださという指示もありました。コロナ前にも一度、三年生の時に対面での面接練習を受けました。そこでは、履歴書の書き方や、就活に挑む姿勢について学びました。

一人ではどうにもならないので、周りの人にはとにかく頼れるだけ頼りました。キャリアセンターだけでなく、ハローワー

お話を聞いてみると、青山さんはかなり積極的に、思考がポジティブですね。

でも根底はネガティブなんです。就職浪人したくない、周りの友達から後れを取りたくないという気持ち。一番強かったのは後悔したくないという気持ちでした。やれることは全部やって、その上で決まったのがこの会社だった、というならいいですが、そうでないなら悔いが残ってしまうと思います。ハローワークの方も、あまり苦労せずぽつと内定が決まった子は入社してもすぐに辞めやすいけれど、色々なところを天秤にかけて悩んで決めると、就活で頑張ったから大丈夫と思えるし、入社後も踏ん張りがきくので辞めにくいというお話をされていました。就活を終えてみて、今は良かったと思えますが、就活中はどこにか大変でした。

今の会社を選んだ決め手は何でしたか？

人事の方と話が合って、一緒に働きたいと思ったことが大きいと思います。最初は食品系の会社を希望していたのですが、最終的には撮影用のカメラ機材の会社になりました。実は3月中旬頃に食品卸業の会社から内定が出ていたのですが、6月頃にコロナの影響で辞退することとなり、そこから就活を再開することになってしまいました。でも、会社の雰囲気や、社長の考え方などに共感でき、付いていこうと思える会社が見つかったので良かったです。最終的に決まった会社は、コロナの影響

ク、親、友人、それからバイト先のお客さんで社員の方達にもお話を伺いました。私のバイト先の店長さんが理解してくださって、お客さんにも就活のアドバイスを伺うことを許可してくださいました。お客さんも結構色々教えてくださって、客観的な、社会人の方からの意見を伺うのはとても勉強になりました。

私の親も社員で、採用を担当したこともあるのでした。なので、履歴書を見てもらいました。かなり恥ずかしかったですが、やはり親なので、遠慮なく色々と言われましたが、それから履歴書が通るようになりましたので、恥ずかしくても自分の履歴書を見てもらうことは大事だと思います。親が一番近い社会人なので、社会人の目で見てもらって、伝えたいことが上手く伝わるように、アドバイスをもらいました。周りに頼ることは、大事だと思います。

就職活動を行ってみて、

楽しかったことや良かったことはありますか？

楽しかったというか、活動中は本当に無我夢中でした。でもインターンを経験することで、大人の社会科見学のような、様々な世界を見る機会があったのは良かったです。沢山お話を伺うことができました。最初は興味がなかった業界でも、お話を聞くのは楽しかったです。また、そこで伺ったお話が、他の会社の面接で役に立つこともありました。

で希望者が集中し、内定が出るまで時間がかかったようでした。通知を待つ間は辛かったです…。

会社を選ぶ際に、福利厚生がしっかりしているところを選ぶなど人によって基準があると思うのですが、私は、「その会社だったらどんな仕事でもしたいと思えるか？」というアプローチの仕方を探しました。つまり、「この会社を好きだと思えるか」を大事にしました。最終的に、説明会やインターンに行った会社を含めると二〇社くらいを検討し、実際にその中で履歴書を送ったのは一〇社くらいでした。

後輩達へのメッセージをお願いします。

メッセージは三つあります。

- ①履歴書はたくさんの人に見せること。たくさんの人を頼るところは大事だと思います。
- ②素直でいること。面接で嘘をついても大人にはばれるし、自分に嘘をつくのもダメです。本当に行きたい会社以外を受けるとは、本当に行きたい会社に絞って受けて、背水の陣で挑んだ方が面接で迫力が出るし気持ちも楽だと思います。
- ③よく寝てよく食べること。やっぱり健康が一番大事です。だんだん切羽詰まってくると同級生にも相談できないし、精神的にも弱ってきますので、体には十分に気を付けて乗り切ることが大事だと思います。

(インタビュー…作田由衣子)

■私の就職活動と就活エージェントの存在

生活文化学科 生活心理専攻 四年 長田 真由子

来春から某メーカー企業の総合職勤務が内定いたしました長田真由子と申します。私自身の就職活動について話していこうと思います。

就活エージェントに登録したきっかけ

まず、結論から話すと、新型コロナウイルスが流行し、就活困難期の最中に就職活動が上手くいったのは、「就活エージェント」の存在があったからと言っても過言ではありません。まずは、就活エージェントに登録する前の私の就職活動について話そうと思います。

私が就職活動を本格的に始めたのは、大学院進学を迷っていたということもあり、大学三年生の二月頃でした。その頃の私は、就職活動はみんなやっているしなんとかなるだろうと思う反面、自分は何がやりたいのか分からない、どう就職活動を進めていけば良いのか分からないという謎の余裕がありつつも、焦りと不安が入り混じった状態でした。そのため、とりあえず手当たり次第エントリーシートを提出したり、会社説明会に行きました。しかし、三月になり、内定を貰ったと話す友人の話を聞くようになりました。友人は決まってくのには、私はこのまま業界、職種を絞らず手当たり次第就職活動を行って本当に大丈夫なのかという思いが強くなってきました。しかし、自分ではど

うになりました。

新型コロナウイルスの流行

四月に入り、自分のやりたい仕事、受けたい企業も決まってきた矢先、新型コロナウイルスが日本、そして世界中で大流行しました。そして、我々就活生もその影響を受け、内定取り消し、採用停止、採用延期などさまざまな問題が取り上げられました。私自身も、採用面接の延期、さらには志望度の高かった企業の今期の新卒採用が中止となる事態に直面しました。採用中止の報告が来たときは、正直やる気が一気になくなり、全てを投げ捨てたくなりました。しかし、来年からの自分の人生を考えると、このままではダメになると思い、エージェントの方と再度面談の機会を作りました。するとエージェントの方からは自分と向き合う時間にし、自分の長所や短所、今まで頑張ってきたことをもう一度見つめ直すといいとアドバイス頂きました。そのため、四月、五月は就職活動をするというよりは自分自身と向き合い、気づいたことはメモをするということを中心にしていました。今思うと、あの自分と向き合った二ヶ月間の考えや思いをまとめることができたからこそ、面接で変化球な質問が来ても、自分の思いをスラスラと伝えることができたのではないかと感じています。

新型コロナウイルス緊急事態宣言解除後(六月以降)

新型コロナウイルス緊急事態宣言の後、徐々に就職活動が再

うすることもできなかったため、先輩に相談しました。すると「就活エージェント」というサイトの存在を教えてもらい、さっそく登録しました。

就活エージェントとは

就活エージェントについて簡単に説明しようと思います。就活エージェントとは、就活生と企業を結びつければマッチングサイトのようなもので、そこに仲介人の方が入っており、自分に合う企業へ繋げてくれるサイトです。また、企業を紹介してもらう前に電話面談を行い、自分の希望企業をエージェント側に伝えることができるため、効率的に就職活動を行うことができます。また、面接練習や、エントリーシートを就職活動のプロに添削もして頂けるため、自信をもって面接に臨むことができます。また、料金も一切かからないという点も魅力の一つです。

就活エージェントを使い始めてから(三月)

就活エージェントに登録するとまず、担当者から電話がかかってきて、今の就職活動の状況や悩みなど、自分が抱えている不安を全て話すことができました。話すことで、自分がどのような仕事をしたいのかが分かってくると同時に自己分析の必要性というのをここで気づくことができました。さらに、これまで私が書いていたエントリーシートの添削を行っていただきました。それにより、だんだん自分に自信ができました。また、やりた

い仕事の方向性が定まり、志望先を絞ってエントリーできるよ

就職先を決めるときに決め手となったこと

一ヶ月集中して就職活動に取り組んだ結果、七月上旬時点で五社の内定を貰っていました。そこから自分は何を優先してこの先仕事をしていくか本当に悩みました。質の良い暮らしをするために、給料面を取るか、プライベートを充実させるために安定した休みが取れる会社を選ぶかなど、エージェントの担当の方はもちろん、両親や信頼のおける友人にも相談し、そして自分自身と向き合って検討しました。そしてその結果、給料、休日など福利厚生ではなく、「自分が楽しくやりがいをもって続けられる仕事はどれか」ということを重視して、内定承諾をした会社に決めました。やはり、いくら高い給料、安定した休日をもたらしたとしても、やりがいを持って働ける楽しい仕事でなければ続かないように思います。

まとめ

最後に、就職活動をする上で感じた重要なことを三つ挙げようと思います。

まず一つ目は、自己分析を徹底的に行うということです。やはり自分が何をしたいか、今後どうしていきたいのかを考える

ことは重要だと感じています。この作業をすることで、面接対策にもなる上に、企業とのミスマッチを防ぐことができます。

二つ目は、相談する相手を作ることです。私は就活エージェントというサイトを活用しましたが、大学の事務センターの方や就職活動を経験した先輩でもいいと思うので、相談できる相手がいたら、違った方向性の考えを聞ける上に、気持ちも少し楽になると思います。

三つ目は、自分のペースで就職活動を行うことです。周りが内定を貰ったという話を聞いて焦ってばかりいましたが、焦ったところで何も上手くいくことはありません。コツコツ自分と向き合い、進めていくことで、働きたい企業が見つかっていくはずですし、企業もあなたの魅力に気づいていくはずです。

この就職活動を通して、辛いこともありましたが、初めてたくさん自分と向き合える良い機会になったように思います。自分が決めた道を春から頑張っていきたいと思います。



■ 幼児保育専攻 幼小コース

小学校教員採用試験奮闘記(第七期生を中心に)

本学生活文化学科 教授 南雲 成一

生活文化学科幼児保育専攻コースに、「小学校教諭一種免許状」と「幼稚園教諭一種免許状」の両方を取得できる『幼小コース』が誕生したのは、二〇一一年四月のことである。南雲が着任したのが二〇一三年四月、今年で九八年目となる。この八年間で、幼小コースの第一期生から第六期生までの四十七人が、真摯に学び教員資格を取得し、各自の希望する道に進んで行った。夢の実現とさらなる充実を求めて……。

第一期卒業生六名が学び舎を巣立ったのが二〇一五年三月。東京都一名、埼玉県二名、静岡県一名が、今現職六年目の小学校の先生として活躍してくれている。他の二名は山梨県・岐阜県の公立病院医療事務従事者として活躍している。

二〇一六年三月には第二期生七名が巣立っていった。東京都一名、埼玉県一名、横浜市一名であり、現職五年目となる。他の四名は、幼稚園教諭一名、民間企業二名、外国留学一名(院)であり、それぞれ元気に活躍している。

二〇一七年三月には第三期生九名が巣立った。東京都五名、千葉県一名、茨城県一名、埼玉県一名、民間企業一名である。彼女は、現職四年目となる。

二〇一八年三月には第四期生八名が巣立った。東京都二名、神奈川県一名、茨城県一名、山梨県一名であり、今年で現職三

自己鍛錬(「自己教育」)を限られた時間の中でどう具体化するのか、基礎スケッチを持ち寄りあい、デザインしあうのである。その上で、幼稚園教育実習と丁寧に取り組みつつ、一年先輩の大学四年生の卒論発表会にも積極的に参加する。勿論実習中であれば、実習終了後「卒論発表要旨集」を読み、興味・関心のある卒業論文は読ませていただく、という学習展開である。

そして二月中旬から四月新学年スタートまでの約一ヶ月半、『自主・自立(律)・自治・自尊・自営』のファイブジー(5G)を胸に秘め、希望する都道府県・政令都市の公立小学校教員採用試験の勉強会を進めるのである。内容は、まず一次試験対策として、☆小学校全科対策(十三教科教育の要点、学習指導要領上の押さえ、歴史と現状の理解の徹底と課題把握)☆教職教養対策(教育法規、教育史、教育方法&技術、幼児・児童・生徒の成長発達特性の再学習と生活世界の理解と支援の手立て等)☆実技試験対策(特に音楽科教育と体育科教育)☆一般教養対策(東京・埼玉・神奈川・横浜と比較すると、長野県・山梨県・群馬県・福島県・静岡県等は、一般教養のウエイトが大きいように感じている)の四つがあげられる。

そして、二次試験対策として☆課題別小論文への取り組み ☆小集団協議・討論への対策と体験・経験の蓄積 ☆課題付き『模擬授業学習指導案の作成』と制限時間付き授業実施、それに伴う面接官との質疑応答 ☆最終個人面接・面談の練習となる。ここで肝心なことは、大学内の自主ゼミ的扱いや内容では

年目となる。幼稚園教諭二名、児童館職員一名(後に教育学系大学院進学)も爽やかに活躍中である。

二〇一九年三月には第五期生十名が巣立った。東京都三名、埼玉県二名、神奈川県一名、福島県一名、長野県地方公務員一名、民間企業二名である。彼女は現職二年目となる。

そして、今年二〇二〇年三月には第六期生七名の卒業生が巣立って行った。東京都二名、山梨県一名、静岡県一名、長野県一名、横浜市一名、川崎市一名である。まさに先生一年目である。

では、令和二年(二〇二一年三月卒業予定)の四年生、幼小コース第七期生九名はどうなったか、詳しく報告させていただくことにしたい。

全世界を巻き込んだコロナ禍(渦・火)の影響に触れずに第七期生の「小学校教員採用試験奮闘記」を語ることはできない。本来ならば九月十一月に四週間の小学校教育実習を終了後、次年度の『教育学演習(教員採用試験対策も兼ねた現代初等教育実践演習)』のプレガイダンスを行い、その中で①一都十県二政令都市の公立小学校教員採用試験の現状把握を進めること、②「卒業論文のテーマ検討・確認作業」を進めること、③大学卒業後の「自分の夢・実践課題」を明確にすること、④①③に真摯に取り組むことを確認しあうのである。

ご縁あって実践女子大学・生活科学部・生活文化学科・幼児保育専攻「幼小コース」に集い、偶然出会った「志」を同じくする友と共に、その『偶然の出あいを必然にする学びあいと

足りないところをどう補うかである。幼小コースの第一期生から今年度の第七期生までが立派なのは、各自の実習校や出身母校の校長先生や副校長先生・教務主任&学年主任・学級担任(「教育実習担当者」)の先生方から特別訓練・採用試験対策特別講義のチャンスを得ていたことである。

長い説明をさせていただいたが、今年度第七期九名の四年生はコロナ禍の為、最も肝心な一月〜三月までと、四月〜七月までラストスパートの時期、対面学習が大切な時期、オンライン学習(Zoom)による双方向授業で乗り切るしか他に方法がなかった訳である。この困難な状況の中を、しかしお互いの情報交換や交流を大切に、力を合わせてよく努力をしてくれたことは特筆に値する。東京都受験者が五名、山梨県、長野県、埼玉県、群馬県、山形県が各一名の受験。希望地が違えば採用試験の一次も二次もそれぞれ独自の頑張り方を進めるしかなかった点も多いなかで、一次試験を八名が合格し二次最終試験も八名が合格できたことは素晴らしいことである。最終合格者発表順で言えば、山梨県一名、長野県一名、山形県一名、埼玉県一名、東京都四名である。見事であった。

最終合格には至らなかったが、二次期限付き合格を手にした者、出身地の校長経験者や教育委員会経験者の方々から熱いエールをいただきながら臨時的任用職のチャンスを手にしていく者、それぞれ「夢の実現とさらなる自己発展・成長」に向けて始動している。素晴らしい若者達である。

■OG 座談会：「コロナ禍での保育・教育の現状」

本学生活文化学科 准教授 井口 眞美

緊急事態宣言が明けて間もない六月二十一日、卒業して五年目の現職保育者・小学校教諭に、コロナ禍での保育・教育の現状について、幼稚園実習を控えた四年生に向けてお話をしてもらいました（録画した映像データをmanabaで配信）。コロナの現状をしっかりと受け止めつつ、現場で日々働き続ける逞しさを強く感じました。

Aさん…卒業して五年目になります。私立の幼稚園で教諭をしています。

Bさん…公立保育士として新宿区で働いています。

Cさん…多摩市の私立保育園で働いています。

Dさん…板橋区の公立小学校で働いています。

司会…よろしくお願ひします。新型コロナ感染症の対応が大変だと思うのですが、それぞれの職場で今一番苦心していることを一言ずつお話ししてください。

Cさん…やはり、保育園は、こまめに消毒をすることや、三密を防ぐことがとても大変。集まって遊んでいけば、大人が中に入って「ちょっと離れようね」と言ったりしています。

Bさん…三、四、五歳は、マスクの着用をもらっています。五歳児はまだいいのですが、三歳児は、もういじくり回しちゃう

Aさん…今年の一年目の保育者は、自分で考えないといけないので、すごく大変だと思うけれど、その分、すごく力がついていると思います。

Bさん…結局、自分で考えることが、自分の力になるからね。

Aさん…大変って言っているけれど、よく頑張っているなと思っています。

Dさん…小学校が保育現場と一番違うのは、授業時間が決まっているので、やらなきゃいけないこと、終わらなくてはいけないことが決まっているから、それを全部こなすのがかなり大変です。夏休みは三週間になったし、土曜日授業も月一回増えちゃったし、一月五日から授業といった、授業時数を変えていくのも大変。それと合わせて、消毒等も大変です。でも、学校にみんなが来てよかったねって感じですよ。

全員…そうよね。

Dさん…もう分散登校は終わり。来週から全員六時間です。みんな六時間。一年生は、さすがにまだ五時間ですが。

Cさん…一年生なんて、四時間授業だったじゃない。

Dさん…授業時間がとにたくないから。

Bさん…子どももストレスだわね。

Aさん…先生も、教えなきゃいけないことを、どう教えるかが難しいよね。

Bさん…「詰め込み教育」だね。

Dさん…話し合いもしてはいけないし、本当に可哀そう。

Aさん…関係性が…。

たり、ポイポイって扱ったりしているので、子どもの発達などに合わせながら言葉がけをしています。マスクを強要するのもちよつと心苦しいけれど、子どもたちの安全を守るためには致し方ないのが苦しいところですよ。

Aさん…遊びを制限しないといけないというのが、一番心苦しいです。そこが、大きいかな。

Bさん…そうそう。コロナがなければ、本当は「こういうことも経験させたい」「ああいうことも経験させたい」という思いがいつばいあるのに、「あ、コロナでできない」となるのが可哀そう。

Aさん…いつも通りにいかないから、考えることが多いです。自分たちの正解が分からないから、「今までやってきた」「今まで通りでいいよね」っていかないことが多く、考えることがいつばいあるなと思います。

Bさん…そうですね。

Aさん…うちは、最初、オンラインで（幼稚園と各家庭をつなぎ）Zoomお集まりをしていたので、一年目の後輩が言っていたのは、「やっているけれど、自分が担任になった感じがしない」ということ。子どもたちの顔も名前も覚えていくけど、何か実感が無いし、どういう反応が返ってくるか分からないという意味で、「自分は先生になれたのか」と苦しんでいて。先輩に聞いても分からないことが多く、「自分で考えて」と言われてしまうんですよね。

Bさん…先輩だつて分からないですよ。

Dさん…昔の教育に戻ったって感じ。

司会…席の座り方は、班ごとに座ってはいない？

Dさん…班座りは、してはいけないことになって、全部一人の席になって。給食もしゃべっちゃダメだから、全員前を向いて。本当に可哀そうだと思うけれど「しゃべっちゃダメだから」と常に言っています。

司会…活動で制限されているのは？

Dさん…音楽や体育が一番制限されていて。あとは、一人でやる作業だけです。勉強は一人でやる作業という感じになっています。

Bさん…共同作業はないの？

Dさん…図工も共同制作はなくなりました。らしいに大きくなると、人と比べるでしょ？もう、楽しくなくなっちゃう子も、きつといるでしょうね。みんなで作るから、大きくていい物ができるといって楽しさも味わえるんだし、そういう経験が少なくなるってことでしょ。

Aさん…差が見えやすくなるね。

Bさん…それが、子どもにとって苦しいですね。また、それを見ている先生たちも苦しいです。

Dさん…こつちもマスクして授業するの、つらくない？

Bさん…すごくつらい！息ができません。でも、子どもたちは付けているから、自分が外すわけにいかないし。コロナも心配だけれど、熱中症が心配です。

司 会…職員は、一日中、絶対マスクは外さない？

B さん…外しません。ただ、園庭は外します。「外します」って断って外してるけど、それ以外は、基本的には、ずっとマスクをしています。

司 会…今年一年間はその形でいく？

全 員…多分そうなると思います。

司 会…行事等はどうですか。

B さん…敬老会「コスモスの会」等は中止です。遠方からお祖父ちゃん、お祖母ちゃんが来るのは、一切なし。

全 員…絶対無理だね。

B さん…行事は全体会はなし。誕生日会は検討して、クラスごとにお祝い。いつもは、三、四、五歳で集まって集会をしていたのですが、中止し、クラスごとのお祝いにしました。大きな行事である運動会は、今、やるかどうか検討中。

A さん…うちは、学年ごとって言われた。

B さん…まだいい方じゃない？土日に行っていた運動会等の行事も、保育参観という形をとって、平日にやることで許可されると思います。もしかしたら小学校は、中止になるかもしれないんでしょ？

D さん…運動会は中止。あと、修学旅行も中止。

全 員…えー。

D さん…六年生は可哀そう。

B さん…遠足は全部中止。芋ほりとかも中止。

D さん…学年、クラスを超えての活動ができません。

B さん…守りません。守れません。でも、繰り返し伝えていきます。遊んでいると忘れてしまうので。こっちも時に忘れてしまうこともありますし。

A さん…お互いの距離が近いからね。

司 会…「密が仕事」みたいなものだね。

C さん…「こういうことをしてます」という事実がきちんと言えるように、対策は行っています。

B さん…食事のパーティションを手作りしています。

司 会…どんなパーティション？

B さん…ブッカーやラミネート板でパーティションを作って、四分の一サイズの牛乳パックに切り込みを入れて差し込みました。それを食事前に机に立てて、食事が終わったら消毒して、おやつの際にまた立てて、終わったら消毒して…。

司 会…一人ずつのブロックを作るの？

B さん…いえ、四人席で、対面に置いています。だから、対面にはパーティションがあるけど、隣同士にはないから、あまり意味がない。でも、机があまり大きくないので、隣の境にまでパーティションを置いてしまうと、食事に支障が出るので諦めました。

A さん…常日頃、大きめの声で話さないよとは伝えていますが、でも、ご飯の時に、寂しいですよ。

B さん…ただ、そこまでしなければいけないのかとも思っています。この時期に経験させたい大事なことがあるのに。

全 員…そこだよ。そうそう。

B さん…うちも、縦割り活動はなし。

D さん…算数も、本当は、(少人数指導のため)二クラスを三クラスに分けてするんだけど、それもできません。

B さん…私、(小学生の時)一番下のクラスで助かったのに…。それもないって、子どもにはつらいわね。

A さん…集会もないの？

D さん…集会もないです。休み時間も時間差でとっています。

一時間目と二時間目の間に中学年、二時間目と三時間目の間が高学年と、なるべく密にならないように配慮しています。

B さん…休み時間と同時に外に飛び出していたけどなあ。

D さん…登校時は、校庭に全員並ばせて、時間になったら、上の学年から順番に中に入れていきます。

A さん…直接教室に行かないの？

D さん…密集しちゃうから、まず全員校庭に並ばせておいて、チャイムが鳴ったら入ってくるようにしています。

A さん…中学校が近くにあるのですが、先生が校舎の外まで点々と並んで、「離れて」って指導しています。

B さん…ソーシャルディスタンスですね。

A さん…中学生だって、それをきちんと守っていますね。

B さん…保育園の子だって「しゅーしゃる でいすたんす」って言うものね。「でいしゅたんす、でいしゅたんす」って言っています。

C さん…言ってる、言ってる。

司 会…子どもたちは、それを守れるの？

B さん…例えば、子どもたちが作品を作って、「お店屋さんごっこをしたい」って言っても、「そうかあ。じゃあ、クラスを半分に分けて、半数ずつでやってみる？」等、やることをやらせてあげることしか、自分たちにはできないので。

C さん…難しいよね…。

B さん…歌、手遊びは対面にならないかなければやれるので、多分実習に行ったらやると思います。手遊び等は、いっぱい覚えておくといいですよ。実習が六月から延びて夏になるなら、夏の手遊び、「魚がはねて」とか「カレーライス」も今やっているし、用意しておくといいです。

全 員…そうそう。

B さん…今後も使っていきますし。

A さん…絶対に無駄にならないと思います。

実習に行ったら、昼寝の時に、消毒を頼まれるかもしれません。効率よくやれるといいですね。

D さん…そういう人、欲しいものね。

B さん…公立なので、そういうのは非常勤さんがやってくれるのでいいですね。用務さんが庭の消毒等もやってくれる。

トイレ掃除も用務さんがやるから、バイ菌にあまり触っていないでいられるのだと思います。

A さん…子どもたちと触れる役割ということね。

B さん…とにかくずっと自粛だったんですよ。今でも「自粛できてる人はしてください」とお願いしている状態です。全然揃っていないんですよ。七月一日が新学期スタート、七月一日が

従来の四月一日。まだ自粛してもらっている子がいるので行事はできないし、栽培しているトマトも食べたら不公平なので、食わずに野菜スタンプにする等の制限がかかっています。七月一日から新学期スタートなので、やっと、いろんなことができるんです。お店屋さんごっこをやってみようかと、七夕等、夏の制作活動も始めようという感じですね。今は、クラス保育です。室内や園庭で思い思いに自由に遊ぶことを大切にしています。

Cさん…今まで子どもたち、来ていなかったたので、今、やっと生活の流れに慣れてきたところです。ようやく慣れてきて、お友達とも「はじめまして」っていう感じです。

司会…例年のように、泣く子はいるの？

全員…いるいる。
Bさん…すごいですよ。園舎中、泣いています。「ギャー」って、ずっと泣いています。私は、年長クラスなので、あんまり泣いてはいないけど、一歳児クラスはすごいです。

Cさん…〇歳児クラスは大変。三歳児ですら、泣いています。
Dさん…一年生も泣いてましたよ。

全員…そうだよね。
司会…家庭もテレワークだったので、いつもよりお母さんがお家にたっぶり居た生活から、急に保育園となると、びっくりしちゃう子も多いでしょうね。

Bさん…自粛で、お母さんお父さんがテレワークしながら、子どもと濃い時間を過ごしたので、満たされている子どもが

Bさん…子どもは嬉しいと思うけれど、こっちの負担は大変ね。よく頑張ったね。Aさんはパソコン操作が得意だからいいけど、苦手な先生は大変だね。

Aさん…できる人でやってね、って言われてやっていました。
Cさん…うちは、電話でちょくちょく連絡は取っていました。

Bさん…うちはやっていませんでしたが、七月一日から始まるので、この前、電話をしました。

司会…これから実習に向かう四年生は就職も控えており、いろいろと考えている時なので、一言ずつ四年生へのエールをお願いします。

Bさん…学生時代に習ったことに無駄はないです。「小児保健」もあの時はわからなかったけれど、今はわかります。

全員…テキストも見直します。
Aさん…手遊びは、とても大事。先生たちから学んだことは絶対に無駄ではないです。

Aさん…コロナ禍で、今は自分の力が試される時期だと思えます。先輩の先生たちもわかっていると思うけれど、自分たちも大変だから、構ってあげられないのだと思います。

Dさん…余裕がないだけですよね。
Bさん…自分のことは責めず、自分ができることをやっていけば、誰かが見ていてくれます。それでも合わないなら、園を変えてもいいと思います。自分が楽しくないと、子どもも楽しくない。自分と周りが楽しいことが大切です。それでいい方向にいけばいい。でも、遣り甲斐だけはあります。

多い印象があります。久しぶりで、ワンワン泣く子は多いんだけど、いったん納得して、すぐに泣き止むのを見ると、満たされているって大事だと感じました。

Dさん…家族の時間って大事。
Bさん…それが証明されたよね。

Aさん…幼稚園に来て大丈夫よ、っていう感覚に子どもたちもなっていると思います。

Bさん…平日頃、眞美先生等から教わった「アタッチメント」情緒の安定」といったことが大事であると感じました。コロナでいい影響もあったのかなと思います。

Aさん…日頃、なかなか会えないパパと長い時間いることができて、子どもたちがすごく安定しているなと思いますね。
Aさん…自粛期間中に、先生たちがバスで園児のお家を回り、制作のセット等を配りました。毎日、先生たちの動画をYouTubeにアップもしました。今日の遊び等を考えてそれをやったりとか。毎日ではないけれどZoomでお集まりをしました。絵本を読んだり、名前呼びをしたり、お家で一番好きなものを言ってもらったりしました。朝十時から、クラスごとに三十分ずつ参加してもらいました。四月、五月は、リモートお誕生会もしました。

Bさん…大変。保護者も見ているんでしょ？
Aさん…〇月生まれの〇〇ちゃん、おめでとう」と名前を呼んだり、お歌を歌ったりしましたよ。
全員…嬉しいよね。

全員…あるある。

Bさん…やはり、やった人にしかわからないけど、つらいこと、泣いたりすることもあります。遣り甲斐はあります。

Dさん…本当に一瞬で、「やってよかった」と思える時がある。
Bさん…あるある。少なくとも、この四人は、その瞬間があります。

Aさん…だから、まだ働き続けているんだものね。
Bさん…実習より働いている方が全然楽。でも、実習の日報は読み返しています。

全員…見る見る。
Bさん…先生のコメントを見て、自分が実習生の指導をする時の参考にしています。

Aさん…正しい文章表記は求められます。「〜たり、〜たり」等は未だに直されるから、眞美先生とか純子先生とかの話をよく聞いて頑張ってください。

全員…頑張ってください。頑張ってほしいです。
司会…どうもありがとうございました。

先輩たちが、このコロナ禍においても、「遣り甲斐」をもって、充実した日々を送っていることが伝わってきました。三密を防ぎ安全な生活を保持しながらも、子ども同士の関係性に心を砕く等、子どもの育ちや子どもの思いを尊重する姿に感動しました。

IV

学生の学び

～卒業論文（4年）題目一覧～

井口ゼミ・島崎ゼミ・松田ゼミ	56
大澤ゼミ・田中ゼミ・南雲ゼミ・渡辺ゼミ・高橋ゼミ	57
塚原ゼミ・長崎ゼミ・細江ゼミ	58
作田ゼミ・塩川ゼミ・水野ゼミ	59

■ 学生の学び ～卒業論文(4年)題目一覧～

○ 井口ゼミ

- 楽しく食べるための保育の環境づくりの在り方
- ― 3、4、5歳児クラスの観察調査をもとに―
- 保育現場での昔話絵本における『残酷な場面』の取り扱いについて ― 保育者の意識調査から―
- 幼稚園・保育園における望ましい一斉の歌活動のあり方
- ― 保育者への実態調査から考える―
- 絵本におけるおおかみの存在意義
- ― 子どもたちが主体的に取り組める行事の在り方
- ― 踊る活動の指導法の調査から―
- 絵本における色彩が幼児に与えるイメージ
- ― 幼児の実態調査と絵本の分析調査に基づいて―
- 保育現場で歌い継がれる童謡とは
- ― 『赤い鳥』を中心とした童謡の歴史調査と保育者へのアンケート調査から考える―
- 学童保育の指導員の専門性向上に向けて
- ― 指導員へのアンケート・インタビュー調査から考える―

○ 島崎ゼミ

- 女子大学生の自己効力感と対人関係および生活満足度の関連性
- ダイエットと筋肉トレーニングに関する研究

○ 大澤ゼミ

- 幼児向けアニメと自己肯定感
- ― アニメ『プリキュア』に込められたメッセージ―
- 多様な家族で育っていく子どもに寄り添う保育
- ― 小学生の非行化防止
- 時代によって変化する女性の恋愛観と結婚観
- ― デイズニープリンセス映画との関係から―
- 保育現場における笑い
- 幼児教育におけるリトミックの在り方

○ 田中ゼミ

- 自己肯定感の低さから生まれるネットいじめ
- ― 人間の価値観における「普通」とは何か
- ― 性の多様性の視点から―
- 保育学生における幼児同士のトラブル対応
- ― 対応時の意識、感情、思考に関する分析―
- 日本における男性の育児参加について考える
- ― パパ・タオータ制導入の検討―
- イマージョン教育が及ぼす母国語習得への影響
- ― いじめによる重大事態を防ぐために
- 幼児期における社会性の育成
- ― 童謡はなぜ長年歌い継がれているのか
- ― 保育・教育現場との関わりの観点から―
- 校則の現状と課題 ― 調査結果の分析から―

- 柔道の投技に関する研究 「内股」について
- 幼老複合施設における子どもと高齢者の交流について
- ― 幼保連携型認定こども園において発生するけがを減少させるためには
- 児童養護施設に対する
- ― 幼児保育専攻と他専攻のイメージの違いについて
- ― 大学生のバラスポーツの認知度、観戦率向上について
- ― パラリンピックに着目して
- 幼児期の運動経験に着目した運動有能感の高低について
- ― 保育現場でどのような運動遊びを展開するか
- ― 運動の継続とそのモチベーションの関係について

○ 松田ゼミ

- ジェンダー・フリー保育の現状と課題
- アニメ番組「それいけ!アンパンマン」の主題歌の研究
- ― やなせたかしの歌詞に注目して―
- 保育における倫理的ジレンマへの対策
- ― 日本とアメリカを比較して見えてくること―
- 「教育玩具」の誕生とその後の変遷
- ― 教育的価値をめぐって―
- 「押し」がもたらすものとは ― 「押し」の存在意義―
- 「感覚統合」から考えるインクルーシブな保育の在り方
- ― きょうだい関係と異年齢保育
- ― 異年齢保育の新たな意義と役割―

■ 若者の着装行動を規定する要因

○ 南雲ゼミ

- 学習力育成のための就学前教育・低学年教育の考察
- ― 比較教育的視点から可能性を探る―
- 一人ひとりの「学びと成長」を支える学級経営と特別支援教育についての一考察
- 小学校外国語(英語)教育が目指すもの
- ― 何を学び、何ができるようにするのか―
- 発達障害的グレーゾーンが増加傾向にある理由と学校・学級での対応について

○ 渡辺ゼミ

- 児童が主体的に学び、学んだことを活用する
- ― 英語の指導方法についての研究
- ― 英語専科指導教員の授業観察を通して―
- 特別な教科道徳における情報モラル教育の実践研究
- ― 算数科問題解決におけるメタ認知的思考に関する研究
- ― 「ふきだし」を用いた指導を通して―
- 登校しづり、不登校傾向のある児童の支援についての研究
- ― ステップサポーターの経験から―

○ 高橋ゼミ

- 環境配慮行動の意識と行動の不一致について
- ― 自分らしさと現在バイアスの観点から―

- 子ども食堂は子どもの居場所・地域交流拠点として機能しているか・子どもと親を対象とした調査から考える
- 女子大生のSNS上におけるリア充アピール行動と変身願望との関連・自己呈示の視点から考える
- 子どもの意思が反映される離婚制度について考える…共同養育の実践に向けて
- 新生活様式が自己肯定感に及ぼす影響
- 暗黙の知能観が仕事における失敗に与える影響
- 日常的なリーダーシップ行動の認識が自信に及ぼす影響…経験サンプリング法による検討
- 首都圏大学生の金融行動はインフルエンサーの影響を受けるのか…同調行動から考える
- 購入型クラウドファンディングを行う動機に関する研究…VINE調査を用いて

○塚原ゼミ

- 第一印象形成における公的自己意識と外見スキーマとの関係性について
- 笑いとストレスの関係
- ペットの飼育経験によりもたらされる飼い主の特徴
- 青年期の痩身体型女性がダイエットを行う心理
- 変身願望と理想の人物像の関連性
- テーマパークと愛着の関連性について
- 人が依存する心理
- スマホ依存と承認欲求、主観的幸福感との関連性…

○作田ゼミ

- 中古の商品を触るイメージが所有感を高める効果に及ぼす影響
- アニメ嗜好が声と音楽のテンポの好みに与える影響
- 顔のスキンケア時の自己接触方法がストレス緩和に及ぼす影響
- 不安・ストレスが夢の質および頻度に及ぼす影響について
- 顔からの印象知覚の文化差―表情認知からの検討―
- 人はロボットに共感できるか?…親近感の影響の検討
- 密集状況に対するネガティブな印象の抑制がリバウンド効果に及ぼす影響 ―感染症不安との関連性の検討―
- 顔と名刺のフォントの印象の一致が名前の記憶に及ぼす影響
- 子どもの目の手掛かりが不正行為の抑止及び道徳的思考の促進に与える影響の検討
- フォントの違いが文章の読み飛ばしの防止に与える影響

○塩川ゼミ

- サイコパス研究の現状と課題
- サイコパス―特性と対人関係を中心に―
- アタッチメント障害とは ―教育現場と家庭でのアタッチメント障害児に対する指導法―
- 大学生による被災地支援のあり方に関する考察…実践女子大学東日本大震災岩手県宮古市支援プロジェクトの検討

- 女子大学生のファッションへの興味とネットショッピングでの購買意欲

- 児童虐待について
- ―福祉・保育の立場から児童虐待を考える―

○長崎ゼミ

- 自閉症スペクトラム障害児の「カルピス」づくりを通じた他者意図理解の発達支援
- 自閉症スペクトラム障害児の協同活動を通じた二文節構文の発達支援

○細江ゼミ

- 女子大学生の結婚観、および子育て観について
- ―父娘関係に着目して―
- 同性婚を日本で認めるべきなのか(諸外国との比較から)
- 友達親子と家族間のSNS使用頻度に関する研究
- 日本におけるワーク・ライフ・バランスと諸外国の制度・政策
- 日本でキリスト教を信仰することは幸せなのか
- ―教育面から世界比較で考える―
- 働く母親が子どもに与える母親像
- ―女子大学生が持つ母親像―
- 現代少年非行とその家族的背景
- (家族構成から見える現代の少年非行について)

■ ネット社会における

- 「同調圧力」と「ネットいじめ」に関する研究
- 児童虐待による子どもの死亡に関する検討
- インターネット依存に関する研究…その概念・研究動向と治療法について
- 花火・花火大会のリラクゼーション・ストレス解消効果に関する研究
- テーマパークのバリアフリー化に関する考察…発達障害と構造化の視点から
- 摂食障害と非行・犯罪の関連に関する考察
- ―クレプトマニアを中心に―
- 教育虐待が子どもに与える影響

○水野ゼミ

- 女子大学生における自尊心と気晴らしの関連性
- ―効果的な気晴らしの方法についての検討―
- VOCALOID曲に対する先入観が曲の印象へ及ぼす影響
- ファン心理における「疑似恋愛」および「同担拒否」と「嫉妬心」・「独占欲」の関連
- SNS利用によるコンサマトリーな価値観と幸福感との関連
- 物事に対する「好き」という気持ち「および」「継続力」と「プラス認識」の関連性
- 対人関係と自尊心がゲーム頻度に与える影響に関する研究
- 承認欲求・ソーシャルサポート及び自己呈示と就職不安の関連

実践女子大学 生活文化フォーラム 第25号

2021年2月19日発行

編集者 生活科学部生活文化学科

発行者 (ホームページ <https://www.jissen.ac.jp/learning/hles/seibun/>)

〒191-8510 東京都日野市大坂上4-1-1

TEL 042-585-8918

FAX 042-585-8919

実践女子大学ホームページ <http://www.jissen.ac.jp>

〔編集企画〕協力・印刷所

日野テクニカルサービス株式会社

〒191-8660 東京都日野市日野台3-1-1

TEL 042-586-5062

FAX 042-586-8944